

## CD Writing Kit CDR-88RW-2

### 取扱説明書

この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P.2)と「使用上のご注意」(P.7)をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

本書では、CDR-88RW-2を主にVS-880と組み合わせたときの操作方法について説明しています。VS-880をお使いのときは本書とVS-880の取扱説明書をお読みください。

CDR-88RW-2は、VS-1680 V-XPANDED以上、またはVS-880EX Ver2.0以上と組み合わせてお使いになることができます。あらかじめ、お使いのVS-1680 / VS-880EXの機能を拡張した上(P.9)で、それぞれの取扱説明書をお読みになり、CDR-88RWをCDR-88RW-2と読み替えて操作してください。また、本書の「はじめに」もあわせてお読みください。

### 取扱説明書の表記について

この取扱説明書では、操作方法を簡潔に説明するために、次のように表記しています。

[ ] で囲まれた英数字は、パネル上のボタンを表しています。  
例：[ SONG ] はソング・ボタンを表しています。

パネルに複数の機能名を併記しているボタンがあります。これらは[ SHIFT ] を押したり、状態によって機能が変化することを示しています。どのボタンを示しているのかがわかりにくい場合は、両方の機能名を併記し、そのときの機能を最初に示します。  
例：[ SOLO (EDIT) ] はソロ・ボタンを示しています。

“ ” で囲まれた英数字は、VS-880ディスプレイの表示を表しています。  
例：シャット・ダウン操作をしたときには“ SHUT / EJECT ? ” と表示されます。

(P.\*\* ) は本書の参照ページを示しています。



► はお使いの機器 (VS-880) の取扱説明書の参照ページを示しています。


© 1998 ローランド


本書の一部、もしくは全部を無断で複写・転載することを禁じます。  
ローランド・ホームページ <http://www.rolandcorp.com/japan/>

# 安全上のご注意

マークについて この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



	<b>注意</b> 感電の恐れあり キャビネットをあけるな	
<p>注意： 感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。この機器の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。修理は、お買い上げ店またはローランド・サービスに依頼してください。</p>		

 このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。




 このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表わしています。

## 火災・感電・傷害を防止するには

### △警告と△注意の意味について


 <b>警告</b>	<p>取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。</p>
 <b>注意</b>	<p>取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。</p> <p>物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表わしています。</p>


### 図記号の例


	<p>△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。</p>
	<p>⊘は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。</p>
	<p>は、強制（必ずすること）を表わしています。具体的な強制内容は、の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。</p>


----- 以下の指示を必ず守ってください -----

## **警告**


この機器を使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。 

この機器を分解したり、改造したりしないでください。 

修理 / 部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。 

この機器を、ぐらついた台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。 

## **警告**


次のような場所での使用や保存はしないでください。 


温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）

水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所

ホコリの多い場所

振動の多い場所

電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。 

電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつきます。 

**警告**

この機器を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。



この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。



次のような場合は、直ちに電源を切って電源コードをコンセントから外し、お買い上げ店またはローランド・サービスに修理を依頼してください。



電源コードやプラグが破損したとき  
異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき  
機器が（雨などで）濡れたとき  
機器に異常や故障が生じたとき

お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。



この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。



電源は、タコ足配線などの無理な配線をしてしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。



外国で使用する場合は、お買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。



CD-ROMをCDR-88RW-2で再生しないでください。大音量によって耳を痛めたり、スピーカーを破損する恐れがあります。

**注意**

この機器は、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。



電源コードを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。



長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから外してください。



接続したコードやケーブル類は、緊雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。



この機器の上に乗ったり、機器の上に乗るものを置かないでください。



濡れた手で電源コードのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。



この機器を移動するときは、電源プラグをコンセントから外し、外部機器との接続を外してください。



お手入れをするときには、電源を切って電源プラグをコンセントから外してください（P.7）。



落雷の恐れがあるときは、早めに電源プラグをコンセントから外してください。



# 目次



この機器をお使いになる前に、取扱説明書裏の「著作権について」「SCMSについて」「許諾条件について」をよくお読みください。

## 使用上のご注意.....7

## はじめに.....9

CDR-88RW-2のできること（主な特長）.....9
付属品を確認する.....9
この取扱説明書の読みかた.....10

## 各部の名称とはたらき（CDR-88RW-2）.....11

フロント・パネル.....11
リア・パネル.....12

## VS-880にCDライト機能を追加する.....13

機能を追加する前に.....13
機能追加に必要なもの.....13
ディスク・ドライブについて.....13
ソングについて.....13
エフェクトについて（VS8F-1を装着している場合）.....13
システム・プログラムZipディスクについて.....14
機能追加の手順.....14

## VS-880の基本的な使いかた.....20

録音作業をはじめる前に.....20
録音作業に必要なもの.....20
VS-880にオーディオ機器を接続する.....20
電源を入れる.....21
新しくソングを作る（ソング・ニュー）.....21
多重録音のおおまかな流れ.....22
楽器を接続する.....22
メトロノームを鳴らす.....23
テンポ・マップを作成する.....23
メトロノームの設定をする.....23

トラックへ演奏を録音する	24
リバーブをかけながら録音する（ループ）	24
アンプ・シミュレーターをかけながら録音する（インサート）	26
別トラックへ録音する（オーバー・ダビング）	27
ミスしたところだけを録音しなおす（パンチ・イン/アウト）	28
デジタル信号を録音するには	28
デジタル接続に必要なもの	28
デジタル機器を接続する	28
CDプレーヤーとデジタル接続するために	29
CDプレーヤーとのデジタル接続を禁止するには	30
マスター・データをつくる（ミックス・ダウン）	30
各トラックのバランスをとる（オート・ミックス）	31
音質を調整する（イコライザー）	31
音量と定位を調整する（レベル/パン）	32
複数トラックの演奏をステレオにまとめる（トラック・バウンシング）	32
リバーブをかけながらトラック・バウンシングする（ループ）	33
コンプレッサーをかけながらトラック・バウンシングする（インサート）	35
不要な部分を削除する（トラック・カット）	38
CD-Rディスクへ書き込みたい部分を選ぶ	38
演奏後の不要部分を削除する	39
演奏前の不要部分を削除する	40

## VS-880でオーディオCDをつくる 41

オーディオCDをつくる前に	41
オーディオCD作成作業に必要なもの	41
CDR-88RW-2を接続する	41
オーディオCDをつくる（CD-Rライト機能）	43
CD-Rディスクへソングを書き込むために	43
複数のソングをまとめて書き込む（トラック番号用マーク・ポイント）	43
曲の境をきめる（トラック番号）	44
曲間に無音部分を作る（ディスク・アット・ワンスとトラック・アット・ワンス）	46
CD-Rディスクへソングを書き込む	47
書き込んだソングを試聴する（CDプレーヤー機能）	51

## VS-880でソング・データを保存する 54

CD-Rバックアップに必要なもの	54
CD-Rディスクへソングを保存する（CD-Rバックアップ機能）	55
CD-Rディスクからソングを読み込む（CD-Rリカバー機能）	57

**VS-1680 / VS-880EX をお使いのとき .....60**

**資料 .....61**

SCSIについて .....61  
故障と思う前に .....61  
Q&A .....62  
メッセージ一覧 .....64  
主な仕様 .....66  
用語集 .....67  
索引 .....68

# 使用上のご注意

2～3ページに記載されている「安全上のご注意」以外に、次のことに注意してください。

## 電源について

雑音を発生する装置（モーター、調光器など）や消費電力の大きな機器とは、別のコンセントを使用してください。

接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の電源を切ってください。

## 設置について

この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。

直射日光の当たる場所や、発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。

## お手入れについて

通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、堅く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。

変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

## 修理について

お客様がこの機器を分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。

当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、または最寄りのローランド・サービスにご相談ください。

## CD-RWドライブの取り扱い

外部からの振動を受けない、しっかりした水平な場所に設置してください。極端に傾けると、CD-RWドライブの動作に悪影響を与えることがあります（許容角度:上方向5度、下方向5度）。

極端に湿度の違う場所に移動すると、CD-RWドライブに水滴がつくことがあります。そのまま使用すると故障の原因になりますので、数時間放置してから使用してください。

電源を入れたり切ったりするときは、ディスクをローディング・トレイから抜いてください。

CD-RWドライブを持ち運ぶときは、ディスクをローディング・トレイから抜いてください。また、ローディング・トレイを下に向けて持ち運ぶことはおやめください。

使用中に振動や衝撃を与えたり、電源を入れたまま移動させたりしないでください。

## CD-Rディスク / CD-RWディスクの取り扱い

ディスクの取り扱いについては、次の点に注意してください。

ディスクの裏面（記録面）に触れない  
ホコリの多い場所で使用しない

直射日光の当たる場所や、閉め切った自動車の中などに放置しない（保存温度:10～50℃）

ディスクはケースに入れて保管してください。

ディスクを長時間CD-RWドライブに入れたままにしないでください。

ラベル面にシールなどの異物を貼らないでください。

ディスクの裏面（記録面）に触れたり、傷をつけたりしないでください。データの書き込み / 読み出しがうまくいかないことがあります。ディスクの汚れは、市販のCD専用クリーナーでクリーニングしてください。

柔らかい乾いた布で内側から外側へ放射状に軽く拭いてください。円周方向には拭かないでください。

レコード・クリーナー、レコード・スプレー、ペンジンなどの溶剤は使用しないでください。

ディスクを曲げたりすると、正常に読み書きできなくなり、誤動作の原因となることがあります。

## 著作権について

第三者が著作権を保有している作品（CDソフト、ビデオ・ソフト、放送など）を無断で録音し、公演、放送、販売、配布などをおこなうことは法律で禁じられています。

ローランドVSシリーズおよびCDR-88RW-2はSCMSを備えていません。これは、著作権を侵害しない作品にまでSCMSによる制限を加えないように考慮しているからです。なお、ローランドVSシリーズおよびCDR-88RW-2を使用することによってあなたが第三者の権利を侵害しても、ローランドは一切その責任を負いません。

### SCMSについて

「SCMS」は「Serial Copy Management System」の略です。これは、DATレコーダーやMDレコーダーなどの民生用デジタル・オーディオ機器において、デジタル接続による二世世代以降の録音を禁止し、制作者の著作権を保護する機能です。この機能を持つデジタル・レコーダーにデジタル接続で録音した場合、デジタル・オーディオ信号といっしょに、SCMSのための符号も記録されます。この符号が記録されているデジタル・オーディオ信号からは、再びデジタル接続で録音することができません。

## 補償について

お客様がローランドVSシリーズおよびCDR-88RW-2を使用して生じた「直接的な損害」「間接的な損害」「その他類似の損害」につきましては、補償を含めご容赦願います。これらの損害には、ローランドVSシリーズおよびCDR-88RW-2の使用で以下のようなことが起こった場合や、起こるかもしれないことをローランドが示していた場合も含まれます。

あなたが何らかの利益を受け損ねてしまうこと  
創った作品やデータが永久に失われてしまうこと  
ローランドVSシリーズおよびCDR-88RW-2本体、あるいは接続機器が使用できなくなってしまうこと

## その他の注意について

DATレコーダーやディスク・ドライブ（ハード・ディスクやZipディスクなど）、CD-RWディスクの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。

故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。

ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐため、プラグを持ってください。

この機器は多少発熱することがありますが、故障ではありません。

音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がからないように、特に夜間は、音量に十分注意してください。ヘッドホンを使用すれば、気がねなくお楽しみいただけます。

輸送や引っ越しをするときは、この機器が入っていたダンボール箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。

### 動作条件について

- CD-RW機能を追加するには、V-XPANDED (Ver.2.00)以上のVS-880が必要です(P.13)。
- CDR-88RW-2を使用して、VS-880でオリジナルのオーディオCDをつくるには、内蔵IDEハード・ディスク(HDP88シリーズ)が必要です(P.38)。

Macintoshは、米国Apple Computer, Inc.の米国及びその他の国における登録商標です。

Iomegaは、米国Iomega Corporationの登録商標です。

Zipは、米国Iomega Corporationの商標です。

文中記載の会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。



# はじめに

このたびは、コンパクト・ディスク・ライティング・キット CDR-88RW-2をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。

CDR-88RW-2は、ローランドVSシリーズ(VS-880 / 1680 / 880EX)用のCD-RWドライブです。オリジナルのオーディオCDを作成したり、ソング・データをCD-RWディスクへ保存したりできます。

バージョン2.0以上のVS-1680またはVS-880EXをお使いのときは、そのままCDR-88RW-2を接続できます。VS-1680 V-XPANDEDまたはVS-880EX Ver.2.0の取扱説明書をお読みください。このときは、CDR-88RWをCDR-88RW-2と読み替えて操作してください。

バージョン2.0未満のVS-1680をお使いのときは、CDR-88RW-2に付属のシステム・プログラム Zipディスクを使い、付属の「VS-1680をアップデートする」の手順に従って、あらかじめVS-1680の機能を拡張してください。

バージョン2.0未満のVS-880EXをお使いのときは、CDR-88RW-2に付属のシステム・プログラム Zipディスクを使い、付属の「VS-880EXをアップデートする」の手順に従って、あらかじめVS-880EXの機能を拡張してください。

VS-880をお使いのときは、そのままではCDR-88RW-2を接続することはできません。まず最初に、「VS-880にCD-RW機能を追加する」にしたがってVS-880にCD-RW機能を追加してください。その後、本書とVS-880の取扱説明書をお読みください。



専用のSMF(スタンダードMIDIファイル)を使用して、ローランドVSシリーズ(VS-880 / VS-1680 / VS-880EX)にCDライト機能を追加することもできます。SMFのダウンロードおよびCDライト機能追加の手順については、ローランド・ホームページをご覧ください。<http://www.rolandcorp.com/japan/>



CDR-88RW-2には、VS-1680 V-XPANDEDおよびVS-880EX 2.0の取扱説明書は付属していません。ご希望のかたは販売店にお問い合わせください(有償)。また、ローランドのホームページからもダウンロードできます。

## CDR-88RW-2 できること(主な特長)

### オリジナルCDを作成できます

通常のCDプレーヤーで再生できる、オリジナルのオーディオCDを作成できます。

### CDの内容を試聴できます

作成したオーディオCDや市販のCDソフトウェアをCDR-88RW-2で再生し、その内容をVS-880で聴くことができます。

### ソング・データを保存できます

ローランドVSシリーズの内蔵ハード・ディスクに録音されているソング・データを、CD-RディスクまたはCD-RWディスクへ保存できます。

## 付属品を確認する

CDR-88RW-2のパッケージには次のものが含まれています。すべてそろっているか確認してください。

CDR-88RW-2 (CD-RWドライブ)

電源コード

SCSIケーブル

(25ピンD-subタイプ・コネクター アンフェノール50ピン・コネクター)

CD-R (Compact Disc-Recordable) 空ディスク

システム・プログラム Zipディスク

CDR-88RW-2 取扱説明書(本書)

VS-1680をアップデートする

VS-880EXをアップデートする

保証書

---

## この取扱説明書の読みかた

この取扱説明書は次のような構成になっています

### ご注意

本書では、CDR-88RW-2を主にVS-880と組み合わせたときの操作方法について説明しています。VS-880をお使いのときは本書とVS-880の取扱説明書をお読みください。

VS-1680 / VS-880EXをお使いのときは、それぞれの取扱説明書をお読みになり、CDR-88RWをCDR-88RW-2と読み替えて操作してください。また、本書の「VS-1680 / VS-880EXをお使いのとき」と「資料」もあわせてお読みください。

### ご注意

本書では、ディスプレイを使用して機能説明をしていますが、工場出荷時の設定（音色名など）と本文中のディスプレイ上の設定は一致していません。あらかじめご了承ください。

## VS-880にCD-RW機能を追加する

システム・プログラムZipディスクを使用して、VS-880にCD-RW機能を追加するまでの手順を説明しています。電源を入れる前に、まずこの章をよくお読みください。

## VS-880の基本的な使いかた

VS-880で録音 / 編集をしてソングを作成し、CDをつくる準備をるところまでのおおまかな流れについて説明しています。VS-880クイック・スタート、およびVS-880 V-XPANDED取扱説明書と一緒にお読みください。

## VS-880でオーディオCDをつくる

「VS-880の基本的な使いかた」で作成したソング・データを、実際にCD-Rディスクへ書き込み、記録内容を確認（試聴）するまでの手順を説明しています。操作の流れに沿ってお読みください。

## VS-880でソング・データを保存する

「VS-880の基本的な使いかた」で作成したソング・データを、CD-RWディスクへ保存（バックアップ）し、復元（リカバー）する手順を説明しています。操作の流れに沿ってお読みください。

## VS-1680 / VS-880EXをお使いのとき

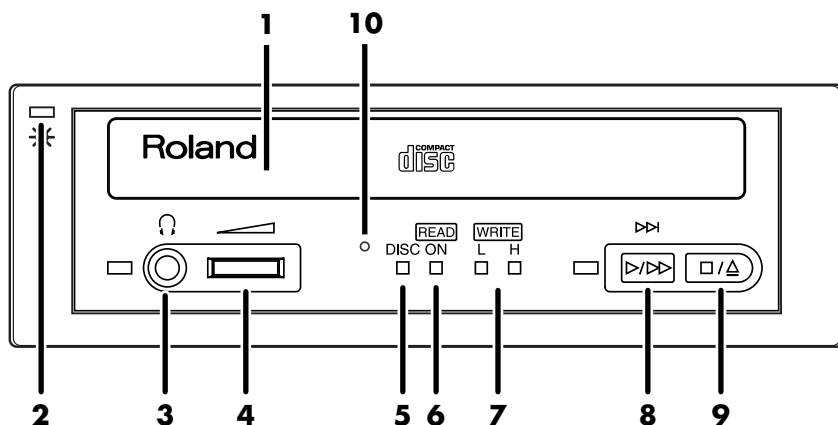
CDR-88RW-2を、VS-1680またはVS-880EXと組みあわせて使用するときの注意について説明しています。お使いの機器の取扱説明書とあわせてお読みください。

## 資料

「故障と思う前に」や「Q&A」、「用語集」など、CDR-88RW-2の基本性能や応用操作について説明しています。必要などきに必要な箇所をお読みください。

# 各部の名称とはたらき (CDR-88RW-2)

## フロント・パネル



### 1 ローディング・トレイ

ディスクを乗せるためのトレイです。

### 2 POWER (パワー) インジケータ

電源が入っているときに緑色に点灯します。

### 3 PHONES (フォーンズ) ジャック

通常はヘッドホンを接続します。CDR-88RWでは使用できません。

### 4 VOL (ボリューム) つまみ

通常はヘッドホンの音量を調節します。CDR-88RWでは使用できません。

### 5 DISC IN (ディスク・イン) インジケータ

ローディング・トレイにディスクが入っているときに緑色に点灯します。

### 6 ON / READ (オン/リード) インジケータ

電源がオンのときに緑色に点灯します。ディスクからデータが読み出されているときは緑色に点滅します。

### 7 WRITE (ライト) インジケータ

ディスクへデータを書き込んでいるときに点灯します。

L : CD-Rディスクで等速、または倍速書き込み

H : CD-Rディスクで4倍速書き込み

L, H : CD-RWディスクへ書き込み

## 8 再生ボタン

通常はCDの再生ボタンとして使用します。CDR-88RW-2では使用できません。

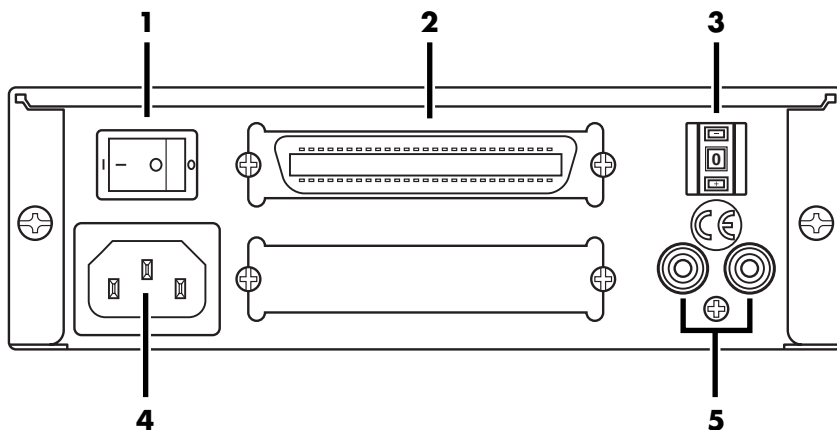
## 9 取り出しボタン

ローディング・トレイを開け閉めするときに押します。

## 10 ローディング・トレイ取り出し穴

何らかの理由でローディング・トレイが開かなくなったときに、針金などを差し込んでトレイを開きます。

## リア・パネル



### 1 電源スイッチ

CDR-88RW-2の電源をオン/オフします。

### 2 SCSI (スカジー) コネクター

アンフェノール・タイプ (リボン・タイプ) 50ピンSCSIコネクターです。

### 3 SCSI-ID (スカジー・アイディー) 設定スイッチ

CDR-88RW-2のSCSI ID番号を設定します。表示部の上下の穴に、細長い棒を差し込んでください。

上穴に棒を差し込み押しすると番号が上がります。下穴では番号が下がります。

### 4 AC インレット

付属の電源コードを接続します。

### 5 AUDIO OUT (オーディオ・アウト) ジャック

通常は音声信号を出力します。CDR-88RW-2では使用できません。

# VS-880にCDライト機能を追加する

CDR-88RW-2には、VS-880にCDライト機能を追加するために、システム・プログラムZipディスクが付属されています。ここでは、システム・プログラムZipディスクを使用して、VS-880 V-XPANDEDにCDライト機能を追加するまでを説明しています。

## ご注意

システム・プログラムZipディスクには機能追加用のプログラムが記録されています。VS-880でイニシャライズしてしまわないようにご注意ください。

## ご注意

専用のSMF（スタンダードMIDIファイル）を使用して、VS-880にCDライト機能を追加することもできます。SMFのダウンロードおよびCDライト機能追加の手順については、ローランド・ホームページをご覧ください。

<http://www.rolandcorp.com/japan/>

## 機能を追加する前に

お使いのVS-880 V-XPANDEDにCDライト機能を追加するにあたり、次のような注意点があります。

### 機能追加に必要なもの

VS-880 V-XPANDED（1台）  
Zipドライブ（ZIP-EXT-2S）  
システム・プログラムZipディスク

## ご注意

VS-880（Ver.1.0）に対してCDライト機能を追加した場合、動作が不安定になることがあります。かならずVS-880 V-XPANDED（Ver.2.00以上）に対して機能追加するようにしてください。Ver.2.0未満のVS-880へCDライト機能を追加したい場合は、VS-880-S1をお求めになり、まず最初にV-XPANDEDへの機能拡張をおこなってください。

### ディスク・ドライブについて

お使いのディスク・ドライブまたはディスクは、機能追加後もそのままお使いにすることができます。初期化する必要はありません。しかしながら、万一に備え、機能追加の前にはソング・データのバックアップをおこなうようにしてください。

### ソングについて

お使いのディスク・ドライブに保存されているソングは、機能追加後もそのままお聴きになることができます。

### エフェクトについて（VS8F-1を装着している場合）

機能を追加する前に、ユーザー・パッチとして保存してあるエフェクト・パッチ、またはシーンとして登録されているエフェクト・パッチは、機能追加後もそのまま使用することができます。

---

## システム・プログラムZipディスクについて

システム・プログラムZipディスクには、以下の2つのプログラムが含まれていません。

SYSTEM-A : CDR-88RW-2を接続できる。DATバックアップ/ベリファイ/リカバーは使用できなくなる。

SYSTEM-B : CDR-88RW-2は接続できない。DATバックアップ/ベリファイ/リカバーは使用できる

お使いのVS-880にCDライト機能を追加すると、SYSTEM-Aが有効になります。このときは、CDR-88RW-2を使用できるようになる代わりに、DATバックアップ/ベリファイ/リカバーが使用できなくなります。ソング・データのバックアップには、DATではなくCD-RまたはCD-RWディスクをお使いください。

すでにDATへソング・データをバックアップしているときは、まずVS-880のシステムをSYSTEM-Bに切り替え(P.17)、DATからソングをリカバーします。その後でシステムをもう一度SYSTEM-Aに戻し、あらためてCD-RまたはCD-RWディスクへバックアップしなおすようにしてください。

### 注意

通常DATバックアップ/ベリファイ/リカバー以外の機能を使うときは、SYSTEM-Aのままでお使いください。

## 機能追加の手順

お使いのVS-880にCDライト機能を追加します。次のように操作してください。

- 
- 1 すべての機器の電源がオフになっていることを確認します。

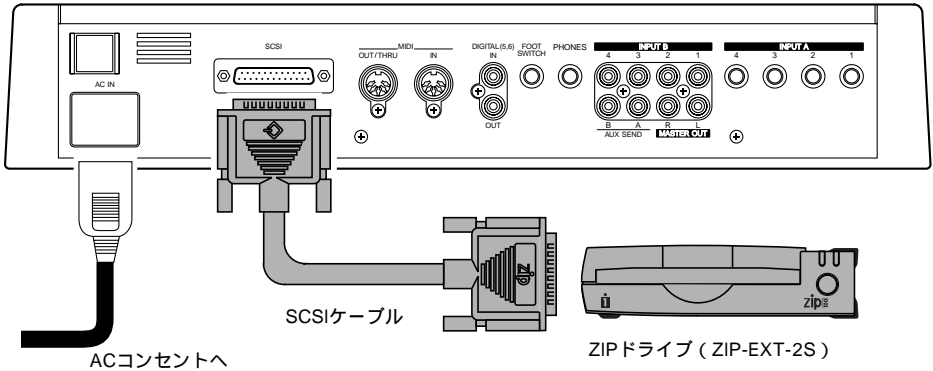
---

  - 2 VS-880に接続されているケーブル(オーディオ、SCSI、デジタルなど)をすべて抜きます。

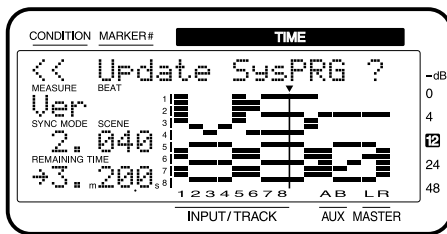
---

  - 3 ZipドライブとVS-880をSCSIケーブルで接続します。Zipドライブ以外のディスク・ドライブは接続しないでください(P.61)。

VS-880- V-XPANDED



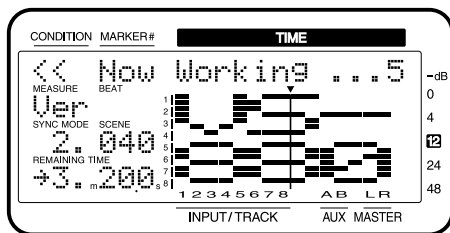
- 4 Zipドライブの電源を入れます。
- 5 システム・プログラムZipディスクをZipドライブへ入れます。
- 6 VS-880に電源コードを接続します。
- 7 リア・パネルの電源スイッチで、VS-880の電源を入れます。“Update SysPRG?” (システム・プログラムをアップデートしますか?) と表示されます。



表示されないときは

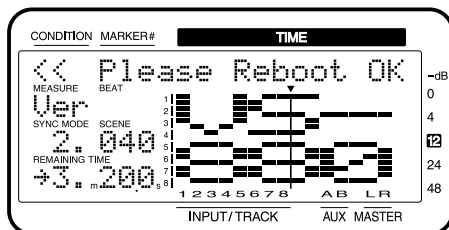
VS-880がVS-880-S2 Zipディスクを認識していません。一度電源を切り、ディスクを正しく入れ直してから、もう一度電源を入れてください。

- 8** [YES] ボタンを押します。機能追加にはおよそ20秒の時間がかかります。このときの進行状況は、ディスプレイにカウント・ダウンで示されます。



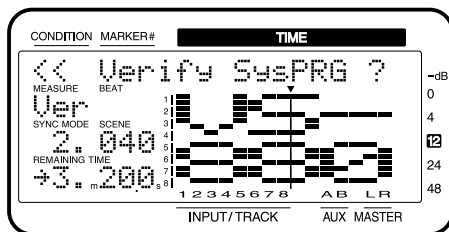
機能追加が終わるまでは絶対に電源を切らないでください。VS-880のシステムが壊れることがあります。

- 9** 機能追加が正しく終わると“Please Reboot OK”(再起動してください)と表示されます。そのままVS-880の電源を切ります。



- 10** もう一度電源を入れます。

- 11** “Verify SysPRG?”(システム・プログラムを確認しますか?)と表示されます。[YES] ボタンを押します。システム・プログラムZipディスクがイジェクトされ、正しく機能追加されているか、VS-880は自己診断をおこないます。このときの進行状況は、ディスプレイにカウント・ダウンで示されます。

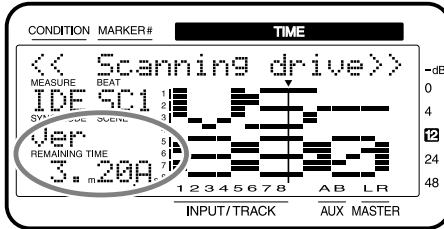






自己診断が終わるまでは絶対に電源を切らないでください。VS-880のシステムが壊れることがあります。

- 12** 自己診断の結果、正しく機能が追加されていることが確認できると、VS-880は自動的に再起動します。システム・ソフトウェアのバージョン・ナンバーがREMAINING TIME 欄に表示されます。バージョンが3.20A以上であることを確認してください。



#### 表示されないときは

機能追加が正しくできていません。もう一度「機能追加の手順」にしたがって操作してください。

これでVS-880 V-XPANDEDにCDライト機能が追加できました。  
このZipディスクは、高温になる場所などを避け、安全な場所へ保管しておいてください。また、システム・プログラムZipディスクは、VS-880以外の機器ではご使用になれません。



V-XPANDEDにCDライト機能を追加すると、CDプレーヤーとのデジタル接続ができなくなります。そのままでは、CDプレーヤーからの出力をDIGITAL INコネクターを経由して録音することはできません。詳細は「デジタル信号を録音するには」(P.28)をお読みください。

## システムを切り替える (SYSTEM-A SYSTEM-B)

システム・プログラムをSYSTEM-AからSYSTEM-Bへ切り替えたいとき、またはSYSTEM-BからSYSTEM-Aへ切り替えたいときは、以下のように操作します。

- 1** すべての機器の電源がオフになっていることを確認します。
- 2** VS-880に接続されているケーブル(オーディオ、SCSI、デジタルなど)をすべて抜きます。
- 3** ZipドライブとVS-880をSCSIケーブルで接続します。Zipドライブ以外のディスク・ドライブは接続しないでください(P.61)。
- 4** Zipドライブの電源を入れます。

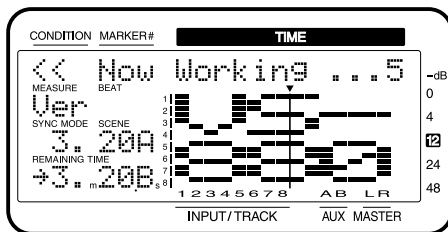
**5** システム・プログラムZipディスクをZipドライブへ入れます。

**6** VS-880に電源コードを接続します。

**7** リア・パネルの電源スイッチで、VS-880の電源を入れます。以下のように表示されます。



**8** [ YES ] ボタンを押します。システム・プログラムZipディスクがイジェクトされ、システムの切り替えが始まります。システムの切り替えにはおよそ15秒の時間がかかります。このときの進行状況は、ディスプレイにカウント・ダウンで示されます。

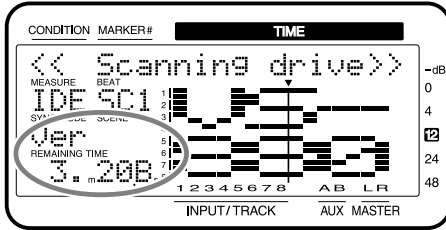


**ご注意**

システムの切り替えが終わるまでは絶対に電源を切らないでください。VS-880のシステムが壊れることがあります。

**9** 機能追加が正しく終わると “ Please Robot OK ” (再起動してください) と表示されます。そのままVS-880の電源を切ります。

- 10** もう一度電源を入れます。システムが切り替わっていることを確認してください。



# VS-880の基本的な使いかた

ここでは、VS-880で録音／編集をしてソングを作成し、オリジナルCDをつくる準備をするところまでのおおまかな流れについて説明しています。VS-880クイック・スタート、およびVS-880 V-XPANDED取扱説明書と一緒に読んでください。

## 録音作業をはじめる前に

VS-880でソングをつくる前に、次のような注意点があります。

### 録音作業に必要なもの

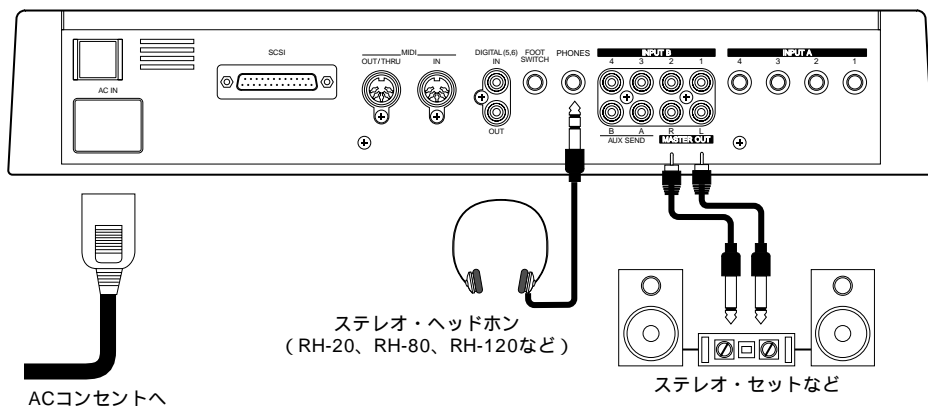
- VS-880 V-XPANDED CD (1台)
- 内蔵IDEハード・ディスク
- マスター・アウト用オーディオ機器、またはステレオ・ヘッドホン
- 録音用機器 (エレクトリック・ギター、シンセサイザー、CDプレーヤーなど)
- またはマイク

### VS-880にオーディオ機器を接続する

#### ▶ クイック・スタート (P.3)

他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

**注意**



## 電源を入れる

- ▶ クイック・スタート (P.4)

### ご注意

正しく接続したら、必ず次の手順で電源を投入してください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカーなどが破損する恐れがあります。

この機器は回路保護のため、電源をオンしてからしばらくは動作しません。

- 1 外部SCSI機器 (Zipドライブなど) を接続している場合は、その機器の電源を入れます。
- 2 VS-880の電源を入れます。
- 3 オーディオ機器の電源を入れます。
- 4 オーディオ機器のボリュームを適当なところまで上げます。

## 新しくソングを作る (ソング・ニュー)

- ▶ クイック・スタート (P.7) V-XPANDED取扱説明書 (P.61)

- 1 “SNG Song New?” と表示されるまで [ SONG ] を押します。
- 2 [ YES ] を押します。
- 3 “SNG SampleRate=” と表示されます。ここでは “44k” (44.1kHz) を選びます。44.1kHz以外の**サンプル・レートを選んだ場合、オリジナルCDを作成することはできません。**
- 4 PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。
- 5 “SNG RecordMode=” と表示されます。好みのレコーディング・モードを選びます。
- 6 [ YES ] を押します。“SNG Create NewSong?” (新しくソングをつくりますか?) と表示されます。
- 7 [ YES ] を押します。“SNG Create New-Sure?” (本当に新しくソングをつくりますか?) と表示されます。

- 8 [ YES ]を押します。“ SNG STORE Current ? ”(現在のソングを保存しますか?)と表示されます。
- 9 現在のソングを保存するときは [ YES ] を、そうでないときは [ NO ] を押します。新しくソングがつけられるとプレイ・コンディションに戻ります。

## 多重録音のおおまかな流れ

VS-880の録音の基本手順は、アナログMTRでの手順とほぼ同じです。また、エフェクト・エクspansion・ボードVS8F-1を装着すれば、VS-880内蔵のエフェクトをかけながら録音作業をすることもできます。

- 1 VS-880に楽器、マイクなどを接続します。
- 2 曲のテンポを決め、テンポマップを作成します。
- 3 メトロノームを鳴らしながら、ドラム、ベースなど、ソングの基本となるパートを録音します。
- 4 基本パートの演奏を聴きながら、他のパート(エレクトリック・ギター、シンセサイザー、ボーカルなど)を録音します(オーバー・ダビング)。
- 5 ミスしたところだけを録音しなおします(パンチ・イン/アウト)。もちろん、気に入らないトラックすべてを録音しなおしてもかまいません。

## 楽器を接続する

- ▶ クイック・スタート (P.8)、V-XPANDED取扱説明書 (P.63)。

- 1 VS-880のマスター・フェーダーを絞ります。
- 2 INPUT Aジャック、またはINPUT Bジャックに、楽器やマイクを接続します。

---

## メトロノームを鳴らす

### テンポ・マップを作成する

▶ V-XPANDED取扱説明書 ( P.90 )

- 
- 1 “ SYS Sync/Tempo ? ” と表示されるまで [ SYSTEM ] を押します。

---

  - 2 [ YES ] を押します。

---

  - 3 “ SYS Syn:Tmap 1= ” と表示されるまで、PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。

---

  - 4 CURSOR [ ▶ ] を押すとカーソルが移動します。録音しようとするソングのテンポ、開始小節、拍子を設定します。

---

  - 5 [ PLAY ( DISPLAY ) ] を押します。プレイ・コンディションに戻ります。

### メトロノームの設定をする

▶ V-XPANDED取扱説明書 ( P.110 )

- 
- 1 “ SYS System PRM ? ” と表示されるまで [ SYSTEM ] を押します。

---

  - 2 [ YES ] を押します。

---

  - 3 “ SYS MetroOUT= ” と表示されるまで、PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。

---

  - 4 “ INT ” を選びます。

---

  - 5 “ SYS MetroMd= ” と表示されるまで、PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。

---

  - 6 “ Rec&Play ” を選びます。

---

  - 7 [ PLAY ( DISPLAY ) ] を押します。プレイ・コンディションに戻ります。

## トラックへ演奏を録音する

- ▶ クイック・スタート (P.8)、V-XPANDED取扱説明書 (P.63)。

- 1 ミキサー・モードはINPUT TRACKモードを選びます。
- 2 録音したいトラックの [ CH EDIT ] を押します。
- 3 [ SHIFT ] を押しながら、トラック1の [ Input/BUSS ( CH EDIT ) ] を押し  
ます。
- 4 どの入力ソース ( INPUT 1 ~ 4 ) を録音するか選びます。たとえば、INPUT 1  
に楽器が接続されているときは“ INPUT-1 ”となります。
- 5 [ PLAY ( DISPLAY ) ] を押します。プレイ・コンディションに戻ります。
- 6 INPUT SENSつまみで入力感度を調節します。
- 7 録音したいトラックのトラック・ステータスを赤色に点滅させます。(録音待  
機状態)。
- 8 [ REC ] を押します。
- 9 [ PLAY ] を押します。録音が始まります。メトロノームに合わせて演奏を  
はじめてください。
- 10 録音が終わったら [ STOP ] を押します。

## リバーブをかけながら録音する (ループ)

- ▶ V-XPANDED取扱説明書 (P.103)。

### 入力側 ( INPUT MIX ) の設定

- 1 ミキサー・モードはINPUT MIXモードを選びます。
- 2 入力ソースに対応したインプット・ミキサーの [ CH EDIT ] を押します。た  
とえば、INPUT1ならばチャンネル1、DIGITAL IN ( 5、6 ) ならばチャンネル  
5と6になります。



- 
- 3** [SHIFT] を押しながら、チャンネル1の [Input/BUSS (CH EDIT)] を押します。
  - 4** PARAMETER [▶▶] を押します。“BUSS Sel=” と表示されます。
  - 5** 録音したいトラックに対応した出力先のバスを選びます。たとえば、1&2トラックならば “1-2” になります。
  - 6** [SHIFT] を押しながら、チャンネル7の [EFFECT-1 (CH EDIT)] を押します。“EFFECT1=” と表示されます。
  - 7** PARAMETER [▶▶] を押すと表示が変わります。必要に応じて、エフェクト1・センド・レベルとエフェクト1・パンを調整してください。

#### 録音側 (TRACK MIX) の設定

- 
- 8** [SELECT] を押して、ミキサー・モードをTRACK MIXモードに切り換えます。
  - 9** 録音したいトラックの [CH EDIT] を押します。
  - 10** [SHIFT] を押しながら、チャンネル1 [Input/BUSS (CH EDIT)] を押します。
  - 11** PARAMETER [▶▶] を押します。“BUSS Sel=” と表示されます。
  - 12** マスター・アウトからモニターできるように “MIX” を選びます。

#### マスター・ブロックの設定

- 
- 13** “MST EFF1 RTN to=” と表示されるまで、[EDIT (SOLO)] を押します。
  - 14** 録音したいトラックに対応した出力先のバスを選びます。たとえば、1&2トラックならば “1-2” になります。
  - 15** PARAMETER [▶▶] を押すと表示が変わります。必要に応じて、エフェクト1・リターン・レベルとエフェクト1・リターン・バランスを調整してください。

## エフェクトの設定

- 
- 16** “EFF EFFECT-1 PRM?” と表示されるまで、[EFFECT] を押します。
- 
- 17** [YES] を押します。
- 
- 18** エフェクト1を選びます。“A00 RV:LargeHall” などを選ぶとよいでしょう。
- 
- 19** [YES] を押します。
- 

## 録音する

- 
- 20** [PLAY (DIAPLAY)] を押します。プレイ・コンディションに戻ります。
- 
- 21** 「トラックへ演奏を録音する (P.21)」にしたがって録音します。
- 

## アンプ・シミュレーターをかけながら録音する (インサート)

- ▶ V-XPANDED取扱説明書 (P.35)

- 
- 1** ミキサー・モードはINPUT TRACKモードを選びます。
- 
- 2** 録音したいトラックの [CH EDIT] を押します。
- 
- 3** [SHIFT] を押しながら、トラック1の [Input/Buss (CH EDIT)] を押します。
- 
- 4** どの入力ソース (INPUT 1~4) を録音するかを選びます。たとえば、INPUT 1に楽器が接続されているときは“INPUT-1”となります。
- 
- 5** [SHIFT] を押しながら、トラック7の [EFFECT-1 (CH EDIT)] を押します。
- 
- 6** エフェクトをどのようにインサートするかを選びます。たとえば、ステレオ録音するのならば、それぞれ“InsertL”“InsertR”となります。
-

- 
- 7 “EQ/Eff Prens=”と表示されるまで、PARAMETER [▶▶] を押します。

---

  - 8 “On” を選びます。

---

  - 9 “EFF EFFECT-1 PRM?”と表示されるまで、[EFFECT] を押します。

---

  - 10 [YES] を押します。

---

  - 11 使用したいエフェクトを選びます。ここでは“A52 GA:JazChorus”などを選ぶとよいでしょう。

---

  - 12 [YES] を押します。

---

  - 13 [PLAY (DISPLAY)] を押します。プレイ・コンディションに戻ります。

---

  - 14 「トラックへ演奏を録音する (P.24)」にしたがって録音します。

## 別トラックへ録音する (オーバー・ダビング)

- ▶ クイック・スタート (P.10) V-XPANDED取扱説明書 (P.63)

- 
- 1 ミキサー・モードはINPUT TRACKモードを選びます。

---

  - 2 録音したいトラックの [CH EDIT] を押します。

---

  - 3 [SHIFT] を押しながら、チャンネル1の [Input/BUSS (CH EDIT)] を押します。“Input=”と表示されます。

---

  - 4 どの入力ソース (INPUT1 ~ 4) を録音するかを選びます。たとえば、INPUT1に楽器が接続されているときは“INPUT1”となります。

---

  - 5 [PLAY (DISPLAY)] を押します。プレイ・コンディションに戻ります。

---

  - 6 再生したいトラックのトラック・ステータス・インジケータを緑色に点灯させます (再生状態)。

**7** 録音したいトラックのトラック・ステータス・インジケータを赤色に点滅させます (録音待機状態)。

**8** 「トラックへ演奏を録音する (P.21)」にしたがって録音します。

## ミスしたところだけを録音しなおす (パンチ・イン/アウト)

- ▶ クイック・スタート (P.14) V-XPANDED取扱説明書 (P.64)。

**1** 録音しなおしたいトラックのトラック・ステータス・インジケータを赤色に点滅させます (録音待機状態)。

**2** [PLAY] を押します。再生が始まります。

**3** 録音しなおしたいところで [REC] を押します。

**4** 録音を終わったら、もう一度 [REC] を押します。

## デジタル信号を録音するには

- ▶ V-XPANDED取扱説明書 (P.72)

### デジタル接続に必要なもの

VS-880 V-XPANDED CD (1台)  
CDプレーヤー、DATレコーダー、MDプレーヤーなどのデジタル・オーディオ機器  
デジタル接続用ケーブル (コアキシャル)  
オプティカル~コアキシャル変換器 (必要ならば)

### デジタル機器を接続する

VS-880のDIGITAL INコネクター (コアキシャル) とデジタル・オーディオ機器のデジタル出力コネクターを接続してください。

### ご注意

オプティカル・タイプ of 出力コネクターしか持たないデジタル機器を接続したいときは、市販の変換器が必要です。お客様相談センター (P.64 取扱説明書裏) へお問い合わせください。

---

## デジタル入力をソースとして選ぶ

- 1** “SYS System PRM?” と表示されるまで、[ SYSTEM ] を押します。
- 2** [ YES ] を押します。
- 3** “SYS MasterClk=” と表示されるまで、PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。
- 4** “DIGITL” を選びます。“Digital In Lock” と表示されます。
- 5** [ PLAY ( DISPLAY ) ] を押します。プレイ・コンディションに戻ります。

## 入力ソースを選ぶ

- 1** 録音したいトラックの [ CH EDIT ] を押します。
- 2** [ SHIFT ] を押しながら、チャンネル1の [ Input/BUSS ( CH EDIT ) ] を押します。
- 3** “DIGITAL-L” または “DIGITAL-R” を選びます。
- 4** [ PLAY ( DISPLAY ) ] を押します。プレイ・コンディションに戻ります。

## CDプレーヤーとデジタル接続するために

V-XPANDEDにCD-RW機能を追加すると、CDプレーヤーとのデジタル接続ができなくなります。そのままでは、CDプレーヤーからの出力を、DIGITAL INコネクタを経由して録音することはできません。CDプレーヤーとデジタル接続したいときは、次のように操作してください。

- 1** “System PRM?” と表示されるまで、[ SYSTEM ] を押します。
- 2** [ YES ] を押します。

- 3 “ CD DigiREC On ? ” と表示されるまで、PARAMETER [ ▶▶ ] を押し  
ます。
- 4 [ YES ] を押します。“ Obey Copyrights? ” ( 著作権に従いますか? ) と表示さ  
れます。
- 5 取扱説明書裏の許諾条件をよくお読みになり、許諾条件に同意するならば  
[ YES ] を押します。“ --- Complete --- ” ( 終了 ) と表示された後、プレイ・コ  
ンディションに戻ります。以後はCDプレーヤーとのデジタル接続ができるよ  
うになります。同意しないならば [ NO ] を押します。そのままプレイ・コン  
ディションに戻ります。

## CDプレーヤーとのデジタル接続を禁止するには

CDプレーヤーとのデジタル接続を禁止したいときは、次のように操作してください。

- 1 “ System PRM ? ” と表示されるまで、[ SYSTEM ] を押し  
ます。
- 2 [ YES ] を押し  
ます。
- 3 “ CD DigiREC Off ? ” と表示されるまで、PARAMETER [ ▶▶ ] を押し  
ます。
- 4 [ YES ] を押し  
ます。“ --- Complete --- ” ( 終了 ) と表示された後、プレイ・コ  
ンディションに戻ります。以後はCDプレーヤーとのデジタル接続はできな  
くなります。

## マスター・データをつくる ( ミックス・ダウン )

CD-Rディスクへ書き込まれるのは、現在のソングの二つのトラック ( ステレオ・  
トラック ) の演奏データです。MASTER OUT ( マスター・アウト ) ジャックや  
PHONES ( フォーンズ ) ジャックで聴くことのできる演奏データではありません。  
このため、次のような注意点があります。

### トラック・パウンシング

VS-880で指定した二つのトラックそれぞれをLトラック / Rトラックとして、  
CD-Rディスクへ書き込みます。まだミックス・ダウンしていない演奏データは、  
オーバー・ダビングを繰り返すなどして、ステレオ・トラックにトラック・パウ  
ンシングしてください ( P.29 ) 。

## ミキシング

再生時にミキサーを調整しても、その内容はCD-Rディスクへは記録されません。たとえば通常の演奏において、フェード・イン/アウトをマスター・フェーダーでコントロールしていたとしても、CD-Rディスクへ書き込むときにはその内容は反映されず、カット・イン/カット・アウトのように聴こえてしまうこととなります。したがって、あらかじめイコライザーやレベル、パンなども調整しながらトラック・バウンシングするようにしてください。あらかじめオート・ミックスを設定しておけば、トラック・バウンシングの操作は簡単になります。

## エフェクト

再生時に有効になるエフェクトはCD-Rディスクへは記録されません。たとえば、通常の演奏において、各トラックの出力にリバーブやディレイをかけていたとしても、CD-Rディスクへ書き込むときにはその内容は反映されず、エフェクトがかかっていないように聴こえてしまうこととなります。したがって、あらかじめエフェクトをかけながらトラック・バウンシングするようにしてください (P.29)。

## Vトラック

トラック・バウンシングされた演奏データが録音されているVトラックを選び、[PLAY]を押したときに、その演奏データを聴くことができるようにしてください。

## 各トラックのバランスをとる (オート・ミックス)

- ▶ V-XPANDED取扱説明書 (P.17)

フェード・イン/アウトのタイミングや、エフェクトのセンド・レベルなどを、オート・ミックスとしてあらかじめ記録しておけば、トラック・バウンシングするときに実際にフェーダーを操作したりする手間を省くことができます。

## 音質を調整する (イコライザー)

- ▶ クイック・スタート (P.15) V-XPANDED取扱説明書 (P.67)

- 1 イコライザーを調整したいトラックの [CH EDIT] を押します。
- 2 [SHIFT] を押しながら、トラック3の [EQ Low (CH EDIT)] を押します。
- 3 CURSOR [▶] またはPARAMETER [▶▶] を押すと表示が変わります。必要に応じてイコライザーのゲインと基準周波数、Q (変化の鋭さ) を調節してください。



各トラックのイコライザーの調整が終わったら、ミキサーの設定をシーンに登録しておくことをお奨めします。

- ▶ V-XPANDED取扱説明書 (P.51)

**4** [ SCENE ] を押します。

**5** 登録したい番号の [ LOC ] を押します。たとえば、シーン1に登録したいときは、[ LOC 1/5 ] を押します。

## 音量と定位を調整する (レベル/パン)

▶ V-XPANDED取扱説明書 ( P.18 )

**1** [ SCENE ] を押しながら [ SELECT ] を押します。[ SELECT ] インジケーターが点滅します。

**2** オート・ミックスしたい時刻へ移動します。

**3** [ SCENE ] を押しながら、[ REC ] を押します。

**4** オート・ミックスを記録するトラックのフェーダーとパンつまみを調整します。

**5** [ PLAY ] を押します。

**6** トラックの演奏聴きながら、トップ・パネルの各フェーダー、各PANつまみを調整します。

**7** ミックスが終わったら [ STOP ] を押します。

## 複数トラックの演奏をステレオにまとめる (トラック・バウンシング)

▶ V-XPANDED取扱説明書 ( P.67 )

CD-Rディスクへ書き込みをおこなうためのマスター・トラック (書き込み元のトラック) は、書き込み時に指定することができます。通常は以下のトラックの演奏データが書き込まれるようになっていきますので、これらのトラックをマスター用として空けておくことをお奨めします。

レコーディング・モード	Lトラック	Rトラック
MAS	5	6
MT1	7	8
MT2	7	8
LIV	7	8



## リバーブをかけながらトラック・バウシングする（ループ）

▶ V-XPANDED取扱説明書（P.107）

### 再生トラックの設定

- 1 ミキサー・モードはINPUT TRACKモードを選びます。
- 2 再生したいトラックの [ CH EDIT ] を押します。
- 3 PARAMETER [ ◀◀ ] [ ▶▶ ] を操作して、“ MIX Sw=” と表示させます。
- 4 MIXバスへの信号の送りかたを選びます。たとえば、チャンネル・フェーダーで音量を調整するときは“ PstFade ”となります。
- 5 [ SHIFT ] を押しながら、チャンネル7の [ EFFECT-1 ( CH EDIT ) ] を押します。“ EFFECT1=” と表示されます。
- 6 MIXバスへの信号の送りかたを選びます。たとえば、チャンネル・フェーダーでエフェクトへの送り量を調整するときは“ PstFade ”となります。
- 7 PARAMETER [ ▶▶ ] を押すと表示が変わります。必要に応じて、エフェクト1・センド・レベルとエフェクト1・パンを調整します。
- 8 トラック・バウシングしたいすべてのトラックについて、手順1～7を繰り返します。

### 録音トラックの設定

- 9 録音したいトラックの [ CH EDIT ] を押します。レコーディング・モードがMASのときはトラック5&6を、MT1 / MT2 / LIVEのときはトラック7&8を、それぞれ録音したいトラックとすることをお奨めします。
- 10 [ SHIFT ] を押しながら、チャンネル1の [ Input/BUSS ( CH EDIT ) ] を押します。“ Input=” と表示されます。
- 11 入力ソースを選びます。たとえば、MIXバスの信号を録音するときは“ MIX-L ”または“ MIX-R ”となります。

## マスター・ブロックの設定

- 
- 12** “MST EFF1 RTN to=”と表示されるまで、[EDIT (SOLO)]を押します。
- 
- 13** エフェクト1のリターン先を選びます。たとえば、MIXバスへ返すときは“MIX”を選びます。
- 
- 14** PARAMETER [▶▶]を押すと表示が変わります。必要に応じて、エフェクト1・リターン・レベルとエフェクト1・バランスを調整します。
- 

## エフェクトの設定

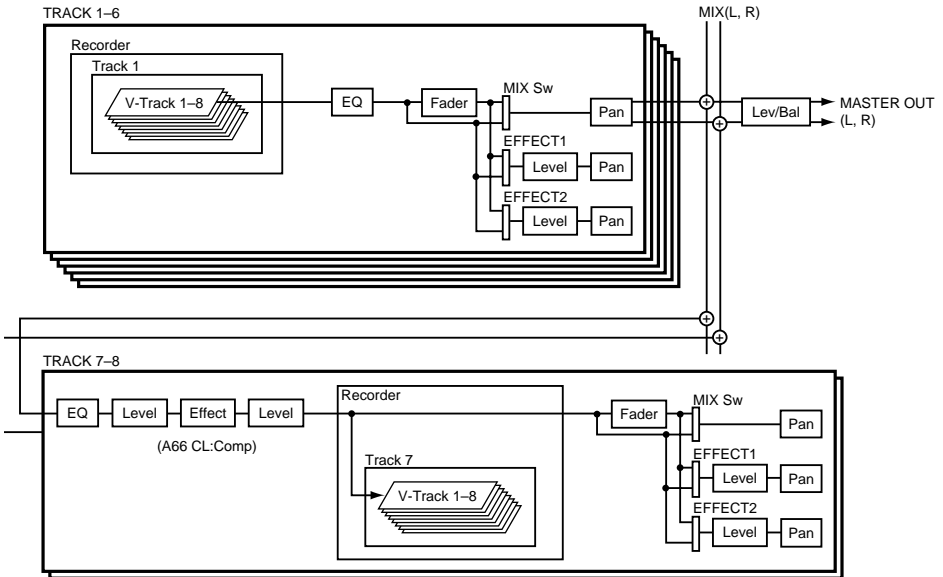
- 
- 15** “EFF EFFECT-1 PRM?”と表示されるまで、[EFFECT]を押します。
- 
- 16** [YES]を押します。
- 
- 17** エフェクト1を選びます。“A00 RV:LargeHall”などを選ぶとよいでしょう。
- 
- 18** [YES]を押します。
- 

## 録音する

- 
- 19** [PLAY (DIAPLAY)]を押します。プレイ・コンディションに戻ります。
- 
- 20** 再生したいトラックのトラック・ステータス・インジケータを緑色に点灯させます (再生状態)。
- 
- 21** 録音したいトラックのトラック・ステータス・インジケータを赤色に点滅させます (録音待機状態)。
- 
- 22** 「トラックへ演奏を録音する (P.24)」にしたがって録音します。
-

## コンプレッサーをかけながらトラック・バウンシングする（インサート）

録音済みのトラックをミックスしたものにエフェクトをインサートし、その音を別トラックへ録音する設定について説明します。ソングを録音したあとで、ソング全体にコンプレッサーをかけ、トータルな音量を見ながらトラック・バウンシングするときなどに有効です。

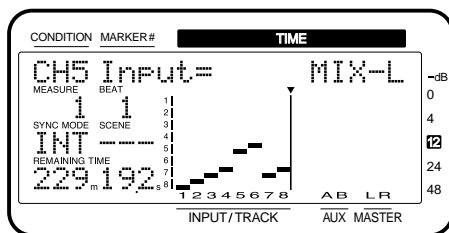


### 再生トラックの設定

- 1 ミキサー・モードはINPUT TRACKモードを選びます。
- 2 再生したいトラックの [ CH EDIT ] を押します。
- 3 PARAMETER [ ◀◀ ] [ ▶▶ ] を操作して、“ MIX Sw=” と表示させます。
- 4 MIXバスへの信号の送りかたを選びます。たとえば、チャンネル・フェーダーで音量を調整するときは “ PstFade ” となります。
- 5 トラック・バウンシングしたいすべてのトラックについて、手順1～4を繰り返します。

## 録音トラックの設定

- 6** Lトラックとして録音したいトラックの [ CH EDIT ] を押します。レコーディング・モードがMASのときはトラック5を、MT1 / MT2 / LIVEのときはトラック7を選ぶことをお奨めします。
- 7** [ SHIFT ] を押しながら、チャンネル1の [ Input/BUSS ( CH EDIT ) ] を押します。“ Input= ” と表示されます。
- 8** 入力ソースを選びます。たとえば、MIXバスの信号を録音するときは “ MIX-L ” となります。
- 9** [ SHIFT ] を押しながら、チャンネル7の [ EFFECT-1 ( CH EDIT ) ] を押します。
- 10** MIXバスのL側にエフェクトをインサートします。“ InsertL ” を選びます。
- 11** “ EQ/EffPreIns= ” と表示されるまで、PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。
- 12** エフェクトをインサートして録音できるようにします。“ On ” を選びます。
- 13** Rトラックとして録音したいトラックについて、手順6～12を繰り返します。ただし、手順8では “ MIX-R ”、手順10では “ InsertR ” となります。



---

## エフェクトの設定

---

**14** “EFF EFFECT-1 PRM?” と表示されるまで、[EFFECT] を押します。

---

**15** [YES] を押します。

---

**16** エフェクト1を選びます。“A66 CL:Comp” などを選ぶとよいでしょう。

---

**17** [YES] を押します。

## 録音する

---

**18** [PLAY (DIAPLAY)] を押します。プレイ・コンディションに戻ります。

---

**19** 再生したいトラックのトラック・ステータス・インジケータを緑色に点灯させます (再生状態)。

---

**20** 録音したいトラックのトラック・ステータス・インジケータを赤色に点滅させます (録音待機状態)。

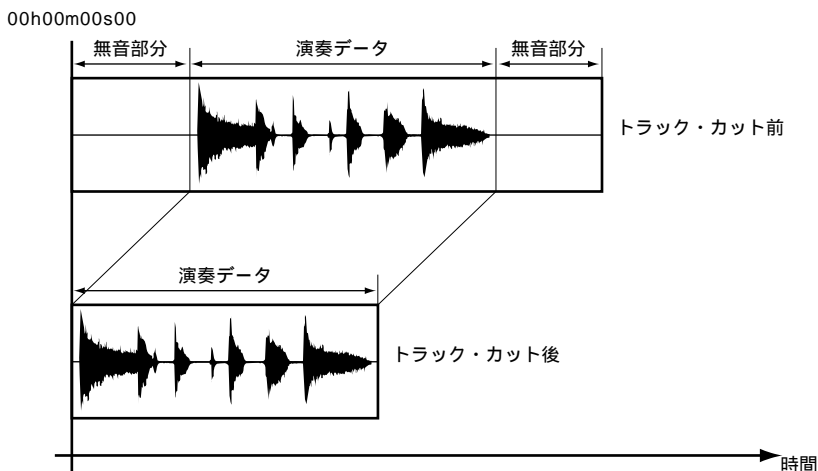
---

**21** 「トラックへ演奏を録音する (P.24)」にしたがって録音します。

## 不要な部分を削除する（トラック・カット）

▶ V-XPANDED 取扱説明書（P.83）

トラック・バウンシングしたソング・データは、そのトラックの“00h00m00s00”からソングの終わり（ソング・エンド）までが、CD-Rディスクへ書き込まれます。そのため、演奏の前後で無音部分があったりする場合、CD-Rディスクの容量を無駄に消費してしまいます。これを避けるために、不要な部分は削除してください。



## CD-Rディスクへ書き込みたい部分を選ぶ

トラック・カットの作業を簡単におこなうため、必要な範囲を選び出し、わかりやすいようにロケート・ポイントへ登録します。

- 1 書き込みをはじめたい時刻へ移動します。
- 2 [LOC 1/5] を押します。ロケート・ポイント1に時刻が登録されます。
- 3 書き込みを終えたい時刻へ移動します。
- 4 [LOC 2/6] を押します。ロケート・ポイント2に時刻が登録されます。

---

**演奏後の不要部分を削除する**

- 
- 1** “Track Cut?” と表示されるまで、[ TRACK ] を押します。

---

  - 2** [ YES ] を押します。

---

  - 3** CD-Rディスクへ書き込みたいトラック (L側) の [ SEL ( CH EDIT ) ] を押します。

---

  - 4** CD-Rディスクへ書き込みたいVトラック (L側) を選びます。

---

  - 5** CD-Rディスクへ書き込みたいトラック (R側) の [ SEL ( CH EDIT ) ] を押します。

---

  - 6** CD-Rディスクへ書き込みたいVトラック (R側) を選びます。

---

  - 7** PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。“TRK St=” と表示されます。

---

  - 8** [ LOC 2/6 ] を押します。

---

  - 9** PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。“TRK End=” と表示されます。

---

  - 10** [ SHIFT ] を押しながら、[ SONG END ( FF ) ] を押します。

---

  - 11** PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。“Track Cut OK?” と表示されます。

---

  - 12** [ YES ] を押します。トラック・カットが終了すると、プレイ・コンディションに戻ります。
-

## 演奏前の不要部分を削除する

- 1 “Track Cut?” と表示されるまで、[ TRACK ] を押します。
- 2 [ YES ] を押します。
- 3 CD-Rディスクへ書き込みたいトラック（L側）の [ SEL（CH EDIT）] を押します。
- 4 CD-Rディスクへ書き込みたいVトラック（L側）を選びます。
- 5 CD-Rディスクへ書き込みたいトラック（R側）の [ SEL（CH EDIT）] を押します。
- 6 CD-Rディスクへ書き込みたいVトラック（R側）を選びます。
- 7 PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。“TRK St=” と表示されます。
- 8 [ ZERO ] を押します。
- 9 PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。“TRK End=” と表示されます。
- 10 [ LOC 1/5 ] を押します。
- 11 PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。“Track Cut OK?” と表示されます。
- 12 [ YES ] を押します。トラック・カットが終了すると、プレイ・コンディションに戻ります。

### 注意

CD-Rディスクへ書き込まれる演奏データは、ハード・ディスクに保存されているものではありません。トラックに現在記録されている演奏データです。必要に応じてソング・ストアの操作をしてください。

- ▶ V-XPANDED取扱説明書（P.74）



# VS-880でオーディオCDをつくる

ここでは、「VS-880の基本的な使いかた」で作成したソング・データを、実際にCD-Rディスクへ書き込み、記録内容を確認（試聴）する手順を説明しています。

## オーディオCDをつくる前に

VS-880でソングをつくる前に、次のような注意点があります。

### オーディオCD作成作業に必要なもの

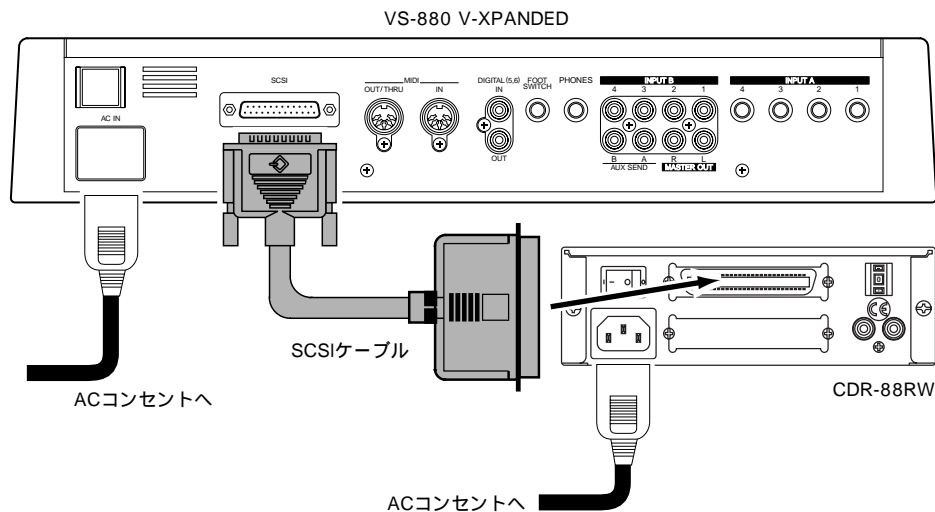
- VS-880 V-XPANDED CD (1台)
- CDR-88RW-2 (1台)
- 内蔵IDEハード・ディスク
- CD-R (Compact Disc-Recordable) 空ディスク
- マスター・アウト用オーディオ機器、またはステレオ・ヘッドホン

### CDR-88RW-2を接続する

- ▶ V-XPANDED 取扱説明書 (P.132)



他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。



- 1** CDR-88RW-2の電源を入れます。
- 2** VS-880の電源を入れます。
- 3** オーディオ機器の電源を入れます。
- 4** オーディオ機器のボリュームを適当なところまであげます。

## オーディオCDをつくる (CD-R ライト機能)

VS-880の任意のふたつのトラック (ステレオ・トラック) の演奏データを、CD-Rディスクへ書き込みます。

### CD-R ディスクへソングを書き込むために

CD-Rライト機能を実行すると、VS-880はまず内蔵IDEハード・ディスクにCD-R用のイメージ・データ・ファイルを作成し、次にそのイメージ・データをCD-Rディスクへ書き込むという動作をします。そのため、内蔵IDEハード・ディスクには、イメージ・データ・ファイルを作成するための十分な空き容量が必要です。



パーティションの設定に関わらず、イメージ・データ・ファイルには内蔵IDEハード・ディスクのすべての空き容量が充てられます。また、イメージ・データ・ファイルは、CD-Rディスクへの書き込み終了後、自動的に消去されます。



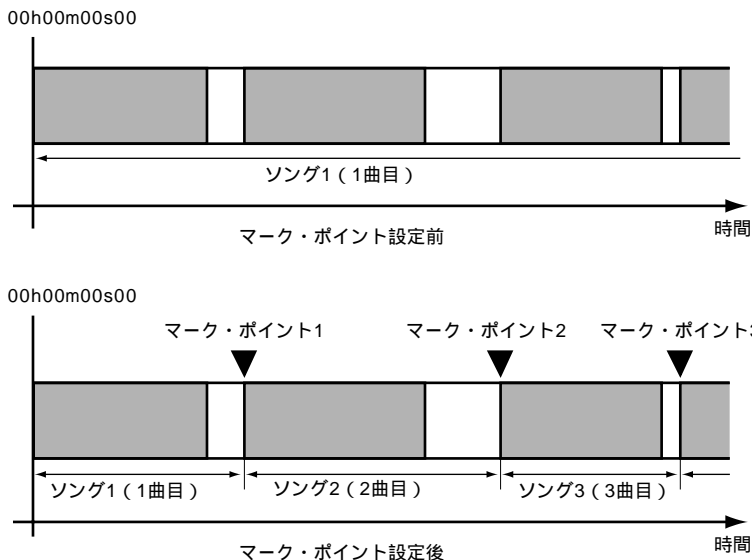
CD-RWディスクへも演奏データを書き込むことができます。ただし、CD-RWディスクの演奏データは、たとえファイナライズをおこなっていたとしても、一般のCDプレーヤーで再生すること (聴くこと) はできません。CD-RWディスクの演奏データは、CDプレーヤー機能 (P.51) で視聴することができます。CD-RWディスクの演奏データは書き換えることができますから、CD-Rディスクへ演奏データを書き込む前に、まずCD-RWディスクへ書き込みをおこない、視聴してみるとよいでしょう。



CD-RWディスクをお使いのときは、ファイナライズされているCD-RWディスク、またはCD-RバックアップされているCD-Rディスクへはオーディオ・データを書き込むことはできません。「CD-RWディスクの内容を消去する」(P.59) にしたが、あらかじめディスクを空にしておいてください。

### 複数のソングをまとめて書き込む (トラック番号用マーク・ポイント)

複数のソングを同一トラックに並べておくことによって、それらのソングをまとめてCD-Rディスクへ書き込むことができます。このとき、あらかじめトラック番号用のマーク・ポイントを曲の境に設定しておくことによって、一般のオーディオCDのようなトラック番号を、CD-R-88RW-2で作成するオーディオCDへ書き込むことができます。必要に応じて、次のように操作します。

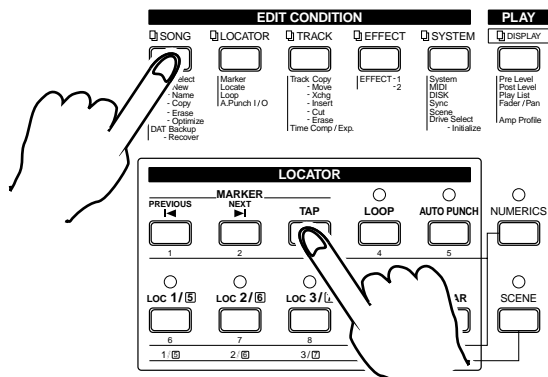


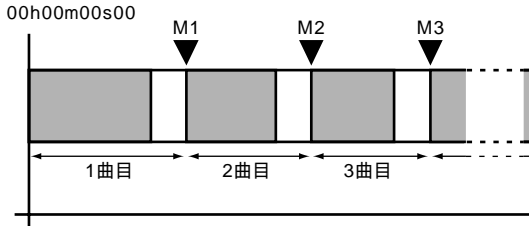
## 曲の境を決める (トラック番号)

**1** ソングを聴きながら、トラック番号を付けたい時刻へ移動します。必要に応じて、プレビュー機能やスクラブ機能を使うことをお奨めします。

▶ V-XPANDED取扱説明書 (P.76)

**2** [SONG] を押しながら、[TAP] を押します。現在時刻にトラック番号用のマーク・ポイントが付きます。トラック番号用マーク・ポイントは、その末尾に “+” が表示されます。





**ご注意**

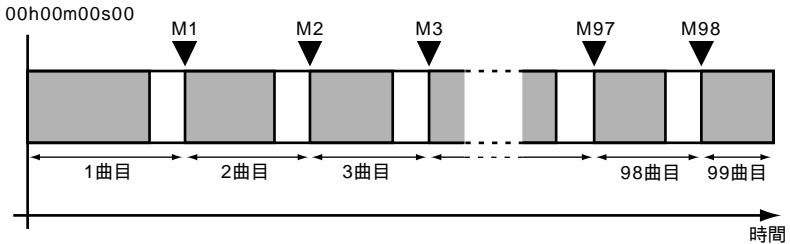
ソングの先頭 (“ 00h00m00s00 ”) から4秒間は、トラック番号用のマーク・ポイントは設定できません。

**ご注意**

オーディオCDの規格により、1曲の長さは4秒以上必要です。このため、4秒以内に二つ以上のトラック番号用マーク・ポイントを設定しようとすると、“ Can't Set Marker ”(マーク・ポイントを設定できません)と表示され、実行することができません。トラック番号用のマーク・ポイントは、4秒以上の間隔をあけて設定してください。

**ご注意**

オーディオCDの規格により、1枚のオーディオCDには99曲まで保存することができます。また“ 00h00m00s00 ”は、特にトラック番号用のマーク・ポイントを設定しなくても、必ず1曲目となります。そのため、トラック番号用のマーク・ポイントは98個まで付けることができます。



**3**

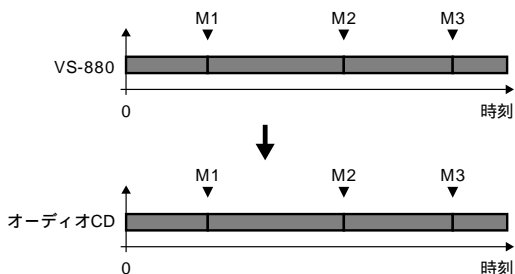
[ SONG ] を押しながら [ PREVIOUS ] を押しと、一つ前のトラック番号用マーク・ポイントへ移動します。[ SONG ] を押しながら [ NEXT ] を押しと、一つ後のトラック番号用マーク・ポイントへ移動します。トラック番号の時刻を確認してください。

## 曲間に無音部分を作る（ディスク・アット・ワンスとトラック・アット・ワンス）

オーディオCDを作成するときには、その曲間の扱いを選ぶことができます。

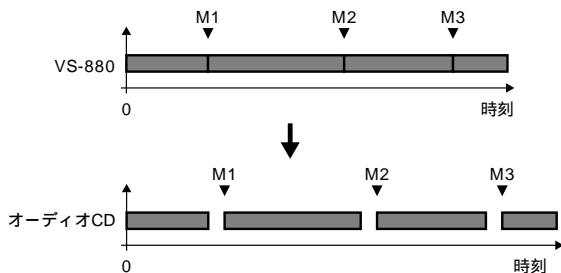
### ディスク・アット・ワンス

ソング・データと、ソング・データに付けられたトラック番号用マーカが、そのままCD-Rディスクへ書き込まれます。ただし、ディスク・アット・ワンスで書き込まれたCD-Rディスクへは、ソング・データを追加して書き込むことはできません（ファイナライズを実行したときと同じ状態）。



### トラック・アット・ワンス

ソング・データに付けられたトラック番号用マーカの前に、自動的に約2秒の無音部分が追加されてCD-Rディスクへ書き込まれます（ソングを追加して書き込んだときと同じ状態）。トラック・アット・ワンスで書き込まれたCD-Rディスクへは、ソング・データを追加して書き込むことができます。

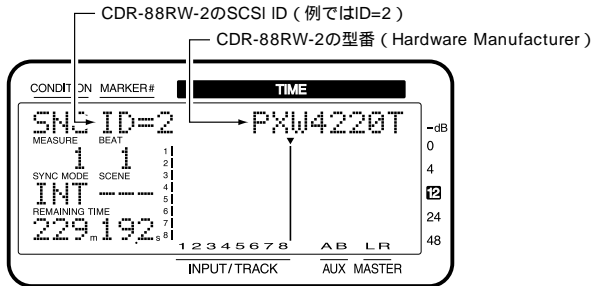


例えば、メドレー曲にトラック番号を付けたいときなどは、ディスク・アット・ワンスが適しています。トラック・アット・ワンスでは、トラック番号用マーカの位置に約2秒の無音部分が追加されてしまうため、曲が断ち切られたような感じで再生されてしまうからです。

CD-RWディスクをお使いのときは、“Track at Once”を選んで書き込みを行うことはできません。

## CD-R ディスクへソングを書き込む

- 1 CDR-88RW-2へCD-Rディスクを入れます。
- 2 “SNG CD-R Write?”と表示されるまで、[SONG]を押します。
- 3 [YES]を押します。“-Scanning CD-R-”(CD-Rドライブ検索中)と表示されます。VS-880は接続されているCDR-88RW-2のSCSI IDを検索し、次にそのIDナンバーを一定時間表示します。



- 4 続いて“Disc at Once?”または“Track at Once?”と表示されます。PARAMETER [◀][▶]でソングの書き込みかたを選び、[YES]を押してください。

### Track at Once

曲間におよそ2秒ずつの無音部分を作ります。ディスクの容量が許す限り、ソングを追加して書き込むことができます。

### Disc at Once

曲間に無音部分を作りません。ただしそのディスクには、それ以上追記ができなくなります。

## 4-1

“Track at Once”を選んだときは、PARAMETER [ ◀▶ ] [ ▶▶ ] でファイナライズをするかどうかを選び、[ YES ] を押してください。



VS-880で作成したオーディオCDを市販のCDプレーヤーで再生できるようにするために、TOC (Table Of Contents) を書き込みます。ファイナライズ操作を行ったオーディオCDには、それ以上の追記ができなくなります。

Write w/o Fin. ?

ファイナライズをせずにソングだけを書き込みます。

Write + Finalize

ソングを書き込んだ後でファイナライズします。

Finalize

ソングを書き込まずにファイナライズだけ行います。ファイナライズをせずにソングを書き込んだCD-Rディスクを入れたときに選びます。

## 5

CD-RディスクのLトラックへ書き込みたいトラックの [ SEL ( CH EDIT ) ] を押します。

## 6

CURSOR [ ▶ ] を押します。

## 7

CD-RディスクのRトラックへ書き込みたいトラックの [ SEL ( CH EDIT ) ] を押します。

## 8

PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。“CD Speed”と表示されます。TIME/VALUEダイヤルでソングをCD-Rディスクへ書き込むときの速度を選んでください。

SNG CD Speed × 1

× 2 : 倍速で書き込みます。

× 1 : 等速で書き込みます。より信頼性が高くなります。

### ご注意

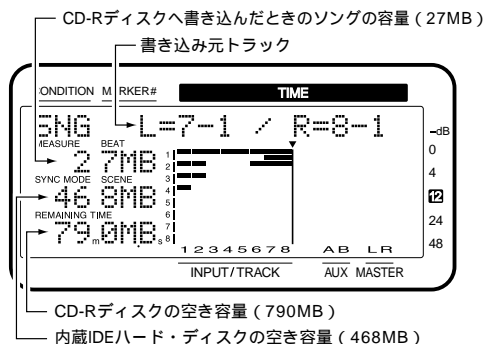
CD-Rディスクによっては、“× 2”に設定すると正常に書き込みできないことがあります。そのときは“× 1”に設定してください。ただし、CD-RWドライブ (CDR-88RW-2) にCD-RWディスクを入れたときは、“× 1”を選ぶことはできません (倍速で書き込みます)。



CD-RWディスクにオーディオを書き込んだときは、一般のCDプレーヤーで再生することはできません。このときはVS-880のCDプレーヤー機能で試聴することができます。



9 ディスプレイに次のように表示されます。それぞれの容量を確認してください。



MEASURE, BEAT 欄： CD-R ディスクへ書き込んだときのソングの容量

SYNC MODE, SCENE 欄： 内蔵IDEハード・ディスクの空き容量

REMAINING TIME 欄： CD-R ディスクの空き容量

ご注意

「CD-R ディスクへ書き込んだときのソングの容量」が、「内蔵IDEハード・ディスクの空き容量」または「CD-R ディスクの空き容量」よりも大きいときは、CD-R ディスクへのソングの書き込みはできません。

ご注意

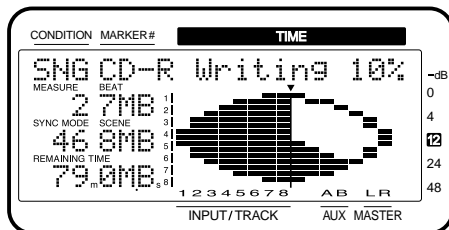
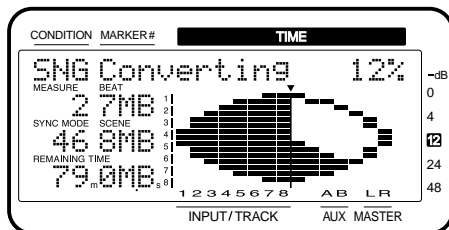
「CD-R ディスクへ書き込んだときのソングの容量」は、必ずしもそのソングそのものの容量 ([SHIFT] + [SONG] を押したときに表示される容量) とは一致しません。これは、使用しているトラック数やレコーディング・モードの違いによるものです (▶ V-XPANDED 取扱説明書 (P.117))。

10 PARAMETER [▶▶] を押します。“SNG CD-R Write Sure?” (CD-R に書き込みますか?) と表示されます。

11 [YES] を押します。“SNG CD Track No. OK?” (トラック番号は設定しましたか?) と表示されます。

12 [YES] を押します。“Obey Copyrights?” (著作権に従いますか?) と表示されます。

13 取扱説明書裏の許諾条件をよくお読みになり、許諾条件に同意するならば [YES] を押します。CD-R ディスクへの書き込みが始まります。同意しないならば [NO] を押します。そのまま手順2の状態へ戻ります。



“ Not 44.1k Song ! ” と表示されたら

ソングのサンプル・レートが44.1kHzではないので、CD-Rディスクへの書き込みができません。[ YES ] または [ NO ] を押すと手順1の状態へ戻ります。「新しくソングを作る(ソング・ニュー)」(P.18)をお読みください。

“ CD-R Not Ready ! ” と表示されたら

CD-RWドライブのローディング・トレイが空いていたり、CD-Rディスクが入っていなかったりするなど、CD-Rドライブの準備ができていません。[ YES ] または [ NO ] を押すと手順1の状態へ戻ります。CD-Rドライブを確認して、もう一度手順1から操作してください。

- 14** 書き込みが正常に終わると、“ Write Another ? ”(別のディスクへも書き込みますか?) と表示されます。別のCD-Rディスクへ同じソング・データを書き込むときは、新しいディスクをCD-R88RW-2へ入れ、[ YES ] を押します。手順10～手順14が繰り返されます。[ NO ] を押すと手順2の状態へ戻ります。

## 書き込んだソングを試聴する（CDプレーヤー機能）

ソングを書き込んだばかりのCD-Rディスク（ファイナライズをおこなっていないCD-Rディスク）や、ソングが書き込まれたCD-RWディスクは、市販のCDプレーヤーでは再生できません。書き込んだソングを確認（試聴）するには、次のように操作します。



CDプレーヤー機能は、市販のCDソフトウェアも再生することができます。



ディスクの内容は、VS-880のMASTER OUT（マスター・アウト）ジャック、またはPHONES（フォーンズ）ジャックで聴くことができます。CD-R88RW-2のPHONES（フォーンズ）ジャック、あるいはAUDIO OUT（オーディオ・アウト）ジャックからは出力されません。

1

CD-R88RW-2へCD-Rディスクまたは市販のCDソフトウェアを入れます。

2

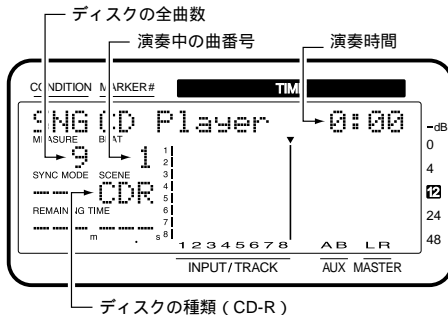
“SNG CD Player？”と表示されるまで、[SONG]を押します。

3

[YES]を押します。

4

“STORE Current？”（現在のソングを保存しますか？）と表示されます。現在のソングを保存しておきたいときは[YES]を、そうでないときは[NO]を押します。“-Scanning CD-R-”（CD-Rドライブ検索中）と表示されます。VS-880は接続されているCD-R88RW-2のSCSI IDを検索し、次にそのIDナンバーを一定時間表示します。CD-Rディスクの情報が表示されます。



“ No Disc ” と表示されたら

CD-R88RWにディスクが入っていません。[ YES ] または [ NO ] を押すと手順1へ戻ります。市販のCDソフトウェア、またはすでに記録済みのCD-Rディスクを入れ、もう一度操作してください。

“ Blank Disc ” と表示されたら

演奏データが書き込まれていないCD-Rディスクに対してCDプレーヤー機能を実行しようとしています。[ YES ] または [ NO ] を押すと手順1へ戻ります。市販のCDソフトウェア、またはすでに記録済みのCD-Rディスクと入れ換え、もう一度操作してください。

**5** 次のボタン、つまみ、フェーダーだけが有効になります。ディスクの内容を試聴してください。

[ ZERO ] :	1曲目の先頭へ移動します。
[ REW ] :	ボタンを押している間だけ早戻しします。
[ FF ] :	ボタンを押している間だけ早送りします。
[ STOP ] :	停止します。
[ PLAY ] :	現在位置から再生をはじめます。
[ PREVIOUS ] :	前の曲へ戻ります。
[ NEXT ] :	次の曲へ進みます。
マスター・フェーダー :	全体の音量を調整します。
PHONES (フォーンズ) つまみ :	ヘッドホンの音量を調整します。

**注意**

ボタン、つまみ、フェーダーの反応が遅いことがあります。これは故障ではありません。たとえば [ PLAY ] や [ NEXT ] を押したときなどは、音が出るまでに約5秒以上かかります。

**注意**

トランスポート・コントロール・ボタンはCDのコントロールに使われます。VS-880のソングのコントロールではありません。また、このときに聴こえる内容をVS-880で録音することはできません。

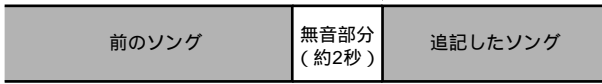
**6** 試聴が終わったら [ STOP ] を押します。

**7** [ CANCEL ] を押します。前ページの手順2の状態に戻ります。または [ SONG ] を押しても手順2へ戻ることができます。

**注意**

ファイナライズをおこなっていないディスクを試聴するときは、そのソングの終わり部分の約0.5秒は再生できません。ファイナライズを実行すると聴けるようになります。

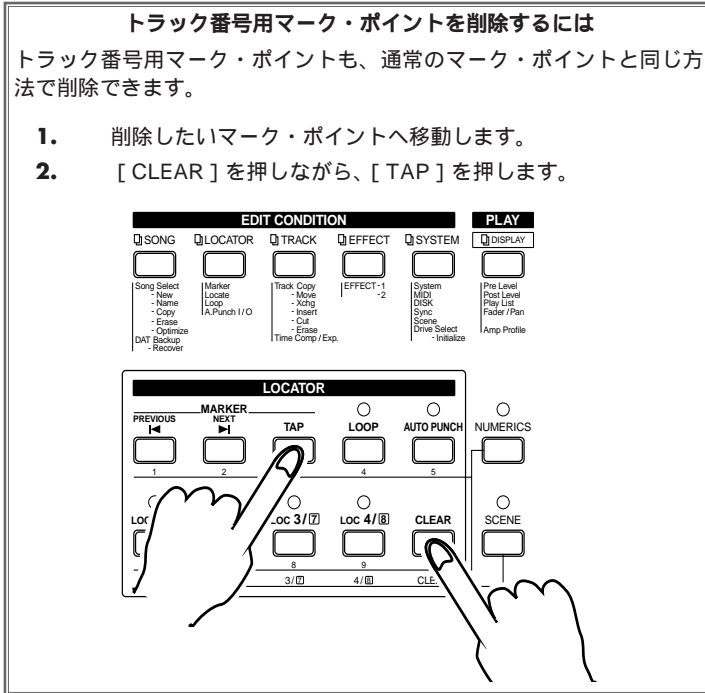
トラック番号



### トラック番号用マーク・ポイントを削除するには

トラック番号用マーク・ポイントも、通常のマーク・ポイントと同じ方法で削除できます。

1. 削除したいマーク・ポイントへ移動します。
2. [ CLEAR ] を押しながら、[ TAP ] を押します。



## ソングを追加して書き込む

ファイナライズをおこなっていないCD-Rディスクへは、その空き容量が許す限り、ソングの追記ができます。「CD-Rディスクへソングを書き込む」(P.47)の操作を繰り返してください。

このとき、前のソングとの間には約2秒間の無音部分ができます。また、トラック番号が自動的に記録されます。

# VS-880でソング・データを保存する(CD-Rバックアップ)

VS-880の内蔵ハード・ディスクに録音されているソング・データを、CD-Rディスク / CD-RWディスクに保存できます。この操作を**バックアップ**と呼びます。逆に、バックアップしたソング・データを内蔵ハード・ディスクへ読み込む操作を**リカバー**と呼びます。バックアップされるソング・データには、すべてのVトラックの演奏データの他、ソングに設定されているロケート・ポイント、マーク・ポイント、シーンの設定なども含まれます。

CD-Rバックアップでは、ソング・データを保存用のデータ形式に変換してバックアップします。したがって、ソング・データをそのまま再生することはできません。必ずカレント・ドライブにソングを復元する操作が必要です。また、1枚のディスクへは保存できないソングをコピーするとき、ディスクの容量にしがって分割して保存します。

- Zipディスクに録音されているソング・データを、CD-Rディスク / CD-RWディスクにバックアップすることはできません。
- CD-Rディスクにバックアップしたソング・データは書き換えることができません。そのため、完成版のソング・データなどのバックアップに適しています。
- すでにソング・データがバックアップされているCD-Rディスク / CD-RWディスクへは、ソング・データを追加してバックアップすることはできません。ただし、CD-RWディスクを使用しているときには、ディスクに保存されているソング・データを消去した後、新たにソング・データを保存することができます。
- もし正常にバックアップがおこなわれなかったためにデータが失われた場合、失われた記憶内容の復元については、補償も含めご容赦願います。また、CD-RWドライブ(CDR-88RW-2)の性能や状態に関わらず、バックアップされたデータの保証はご容赦願います。

## CD-Rバックアップに必要なもの

VS-880 V-XPANDED CD (1台)

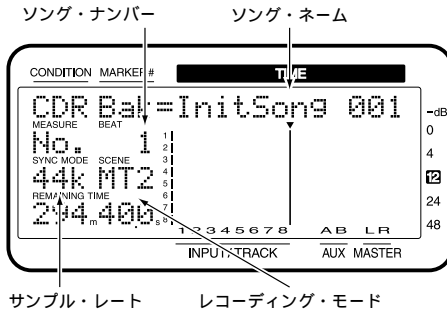
CDR-88RW-2 (1台)

内蔵IDEハード・ディスク(HDP88シリーズ)

CD-Rディスク(空きディスク)、またはCD-RWディスク

## CD-R ディスクへソングを保存する (CD-Rバックアップ機能)

- 1 バックアップしたいソングが録音されているドライブ (内蔵IDEハード・ディスク) を、カレント・ドライブとして選びます。
- 2 CDR-88RW-2ドライブへCD-Rディスク (CD-RWディスク) を入れます。
- 3 “CD-R Backup?” と表示されるまで、[ SONG ] を何回か押します。
- 4 [ YES ] を押します。“STORE Current?” (現在のソングを保存しますか) と表示されます。
- 5 現在のソングを保存しておきたいときは [ YES ] を、そうでないときは [ NO ] を押します。**デモ演奏が選ばれているときは [ NO ] を押してください。** “CDR Bak=” と表示されます。
- 6 TIME/VALUEダイヤルで保存したいソングを選び、PARAMETER [ ▶▶ ] を押します。カレント・ドライブに含まれるすべてのソングをバックアップしたいときは “All” を選んでください。



- 7** “+Verify=” と表示されます。TIME/VALUE ダイアルを操作し、PARAMETER [▶▶] を押します。

SNG +Verify= On

+Verify (+ベリファイ)

“On” に設定すると、ソングをバックアップした後に、そのデータが正しく保存されているかどうかの確認を行います。

- 8** “CD Speed=” と表示されます。TIME/VALUE ダイアルを操作します。

SNG CD Speed × 1

CD Speed (CDスピード)

× 2 : 倍速でバックアップします。

× 1 : 等速でバックアップします。より信頼性が高くなります。

**ご注意**

CD-Rディスクをお使いのとき、ディスクによっては“×2”に設定すると正常にバックアップできないことがあります。そのときは“×1”に設定してください。また、CD-RWドライブ (CDR-88RW) にCD-RWディスクを入れたときは、“×1”を選ぶことはできません (倍速でバックアップします)。

- 9** [YES] を押します。バックアップが実行されます。

**CD-RW ディスクをお使いのとき**

手順2で、すでにソング・データが保存されているCD-RWディスクを入れたときは、以下のように操作します。

- 9-1.** “Finalized CD!” または “Not Blank CD!” と表示されます。
- 9-2.** [ENTER (YES)] を押してください。“CD-RW Erase ?” と表示されます。
- 9-3.** [YES] を押します。“CD-RW Erasing...” と表示され、CD-RWディスクの内容が消去されます。CD-RWディスクの内容を消去したくないときは [NO] を押してください。このときは、CD-RWディスクが排出されますので、空きディスクを入れて [YES] を押してください。
- 9-4.** CD-RWディスクの内容が消去されると “Continue ?” と表示されます。 [YES] を押してください。ソング・データをバックアップせず、単にディスクの内容を消去したいだけのときは [NO] を押してください (P.47)。



---

**10** ソング・データの容量が多く、1枚のディスクにバックアップできないときは、必要なディスクの枚数を確認するために、まずディスクが排出され“ Insert Disc # ”（#はディスクの順番）と表示されます。次のディスクを入れて [ YES ] を押してください。このとき、ディスクを入れた順番がわかるように、ディスクのラベルにディスク・ナンバーを書いておくことをおすすめします。

---

**11** 複数のディスクに渡ってバックアップがおこなわれるときは、最後に“ Insert Disc # ”と表示されます。順番のとおりにそれぞれのディスクをもう一度入れて、[ YES ] を押してください。

---

**12** CD-Rバックアップが終わるとプレイ・コンディションへ戻ります。

## CD-R ディスクからソングを読み込む（CD-R リカバー機能）

---

**1** 読み込み先（復元先）のドライブを、カレント・ドライブとして選びます。

---

**2** CDR-88RW-2ドライブへ、ソングがバックアップされているCD-Rディスク（CD-RWディスク）を入れます。

---

**3** “ CD-R Recover? ” と表示されるまで、[ SONG ] を何回か押します。

---

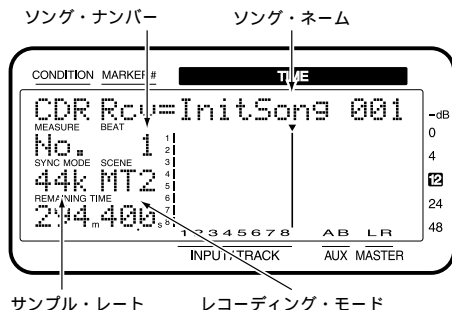
**4** [ YES ] を押します。“ STORE Current? ”（現在のソングを保存しますか）と表示されます。

---

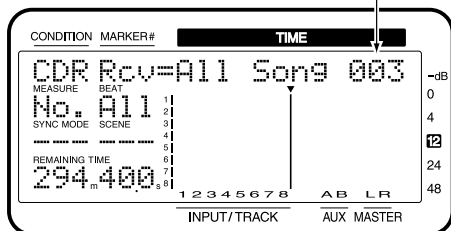
**5** 現在のソングを保存しておきたいときは [ YES ] を、そうでないときは [ NO ] を押します。{ デモ演奏が選ばれているときは [ NO ] を押してください }。“ CDR Rcv= ” と表示されます。

---

**6** TIME/VALUE ダイアルで保存したいソングを選び、PARAMETER [ ►► ] を押します。カレント・ドライブに含まれるすべてのソングをリカバーしたいときは“ All ”を選んでください。



CDRバックアップされている全曲数（3曲）



**7** “CD Speed=” と表示されます。TIME/VALUE ダイヤルを操作します。

SNG CD Speed      × 1

### CD Speed（CDスピード）

ソングをディスクへからリカバーするときの速度を選びます。

- × 6：      6倍速でリカバーします。
- × 2：      倍速でリカバーします。
- × 1：      等速でリカバーします。より信頼性が高くなります。

### ご注意

CD-Rディスクをお使いのとき、ディスクによっては“×6”や“×2”に設定すると正常にリカバーできないことがあります。そのときは“×1”に設定してください。“CD Speed”を倍速や6倍速に設定しても、リカバーにかかる時間は単純に1/2、1/6にはなりません。これは、内蔵ハード・ディスクへの書き込み速度や、ディスクの読み取りエラーの発生頻度などによるものです。

**8** [YES] を押します。

**9** 手順6で“ All ”を選んだときは、“ INIT\*\*\*:OK? ”(ディスク・ドライブをイニシャライズしますか)と表示されます。“ \*\*\*: ”は、リカバー先ディスク・ドライブのIDナンバーとパーティション・ナンバーです。たとえば、内蔵ハード・ディスクのパーティション0へリカバーするときには、“ IDE:0 ”と表示されます。

**10** カレント・ドライブをイニシャライズしてからリカバーしたいときは [ YES ] を押します。この場合、カレント・ドライブに保存されているソング・データはすべて失われます。イニシャライズをせずにリカバーしたいときは [ NO ] を押ししてください。通常は [ NO ] を押すようにするとよいでしょう。

**11** 読み込みが実行されます。複数のディスクに渡ってバックアップが行われているときは、ディスクが排出され、“ Insert Disc # ”( #はディスクの順番 ) と表示されます。次のディスクを入れて [ YES ] を押ししてください。

**12** CD-Rリカバーが終わるとプレイ・コンディションへ戻ります。

#### CD-RWディスクの内容を消去する

すでになにかデータが保存されているCD-RWディスクでは、オーディオCDをつくることができません ( P.41 )。オーディオCDをつくるために、現在CD-RWディスクに保存されている内容を消去したいときは、次のように操作します。

1. CDR-88RW-2へ、消去したいCD-RWディスクを入れます。
2. “ CD-R Backup? ” と表示されるまで、 [ SONG ] を何回か押します。
3. [ YES ] を押します。“ STORE Current? ”(現在のソングを保存しますか)と表示されます。
4. 現在のソングを保存しておきたいときは [ YES ] を、そうでないときは [ NO ] を押します。**デモ演奏が選ばれているときは [ NO ] を押ししてください。**“ CDR Bak= ” と表示されます。
5. [ YES ] を押します。“ Finalized CD! ” または “ Not Blank CD! ” と表示されます。
6. [ ENTER ( YES ) ] を押します。“ CD-RW Erase ? ” と表示されます。
7. [ YES ] を押します。“ CD-RW Erasing... ” と表示され、CD-RWディスクの内容が消去されます。
8. “ Continue ? ” と表示されたら [ NO ] を押します。

# VS-1680 / VS-880EX をお使いのとき

バージョン2.0以上のVS-1680またはVS-880EXをお使いのときは、そのままCDR-88RW-2を接続できます。VS-1680 V-XPANDEDまたはVS-880EX Ver.2.0の取扱説明書をお読みください。このときは、CDR-88RWをCDR-88RW-2と読み替えて操作してください。

バージョン2.0未満のVS-1680をお使いのときは、CDR-88RW-2に付属のシステム・プログラムZipディスクを使い、付属の「VS-1680をアップデートする」の手順に従って、あらかじめVS-1680の機能を拡張してください。

バージョン2.0未満のVS-880EXをお使いのときは、CDR-88RW-2に付属のシステム・プログラムZipディスクを使い、付属の「VS-880EXをアップデートする」の手順に従って、あらかじめVS-880EXの機能を拡張してください。



専用のSMF（スタンダードMIDIファイル）を使用して、ローランドVSシリーズ（VS-1680 / VS-880EX）にCDライト機能を追加することもできます。SMFのダウンロードおよびCDライト機能追加の手順については、ローランド・ホームページをご覧ください。 <http://www.rolandcorp.com/japan/>



CDR-88RW-2には、VS-1680 V-XPANDEDおよびVS-880EX 2.0の取扱説明書は付属していません。ご希望のかたは販売店にお問い合わせください（有償）。また、ローランドのホームページからもダウンロードできます。

CD-RWディスクは、保存されている内容を書き換えることができます。このときは、すでにディスクに保存されている内容を消去した後、まったく新たな内容を保存しなおすことになります。たとえCD-RWディスクを使用している場合、すでにソング・データがバックアップされているディスクへは、ソング・データを追加してバックアップすることはできません。

CD-RWディスクを使用して、オーディオCDを作ることもできます。ただし、CD-RWディスクの演奏データは、たとえファイナライズをおこなっていたとしても、一般のCDプレーヤーで再生すること（聴くこと）はできません。CD-RWディスクの演奏データは、CDプレーヤー機能（P.42）で視聴することができます。CD-RWディスクの演奏データは書き換えることができますから、CD-Rディスクへ演奏データを書き込む前に、まずCD-RWディスクへ書き込みをおこない、視聴してみるとよいでしょう。

## SCSI について

### ターミネーター

SCSI チェーンの両端の機器には、ターミネーター（終端抵抗）を付けなければなりません。CDR-88RW-2 は SCSI コネクタを一つだけ装備しています。そのため、かならず SCSI チェーンの一部になりますから、ターミネーターが常に有効になっています。

### SCSI ID ナンバー

それぞれのディスク・ドライブは SCSI ID ナンバー（0～7）で区別されます。したがって、複数のディスク・ドライブを接続するときは、接続しているディスク・ドライブの SCSI ID ナンバーが重複しないように設定する必要があります。SCSI ID ナンバーが重複していると、VS-880 はディスク・ドライブを正しく認識できません。



お買い上げ時の VS-880 は、SCSI ID ナンバーが 7 に設定されています。また、お買い上げ時の Zip ドライブは、SCSI ID ナンバーが 5 に設定されています。CDR-88RW-2 の SCSI ID ナンバーはそれ以外に設定してください。

#### SCSI ID ナンバーを変更するには

リア・パネルの SCSI-ID 設定スイッチで現在の SCSI ID ナンバーが確認できます。その上下の穴に、細長い棒を差し込んで押すと、SCSI ID ナンバーを切り換えることができます。上穴に棒を差し込み押すと番号が上がります。下穴では番号が下がります。

## 故障と思う前に

### デジタル接続できない

デジタル接続が禁止されている（P.28）。

### CDR-88RW-2 が認識されない

正しく接続されていない。  
ディスクが入っていない。

### CD-R ディスクへ書き込みできない

ソングのサンプル・レートが 44.1kHz 以外に設定されている（P.21）  
内蔵 IDE ハード・ディスクに十分な空き容量がない（P.39）  
CD-R ディスクに十分な空き容量がない。  
市販の CD ソフトウェアに対して書き込みをおこなおうとしている。  
ファイナライズ済みの CD-R ディスクに対して書き込みをおこなおうとしている。

## Q&amp;A

Q	A
CDR-88RW-2を購入しました。すぐに使用したいのですが？	CDR-88RW-2はCD-RWドライブです。単体では使用できません。次のようなものを準備してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• VS-880 V-XPANDED CD</li> <li>• VS-880内蔵用ハード・ディスク・ドライブ・ユニット (HDP88シリーズ)</li> <li>• Zipドライブ (ZIP-EXT-2S)</li> <li>• システム・プログラムZipディスク</li> <li>• 楽器、マイク、CDプレーヤーなどの録音用機材</li> <li>• マスター・アウト用オーディオ機器、またはステレオ・ヘッドホン</li> <li>• CD-Rディスク など</li> </ul>
Zipドライブは必ず必要なのですか？	VS-880のシステムをアップデートしたり、SYSTEM-AとSYSTEM-Bを切り替えたりするために必要です。アップデート後はソングのバックアップなどにも有効にお使いいただけます。
システム・プログラムZipディスクは何に使用するのですか？	お使いのVS-880 V-XPANDEDにCD-RW機能を追加します。機能追加の手順については「VS-880にCDライト機能を追加する」(P.13)をお読みください。
システム・プログラムZipディスクは一般のパーソナル・コンピューターなどで使用できますか？	VS-880-S2はVS-880専用のZipディスクです。他の機器で使用することはできません。
オリジナルのエフェクト・パッチを作成しています。CD-RW機能を追加するとエフェクト・パッチは消えてしまいますか？	消えません。エフェクト・パッチは、機能追加後もそのまま使用することができます。
市販のオーディオCDをDIGITAL INコネクターから録音しようとしたら、“Can't REC CD!”と表示されたのですが？	VS-880 V-XPANDED CDにCD-RW機能を追加すると、そのままではデジタル接続できなくなります。「デジタル信号を録音するには」(P.28)をお読みください。
CDR-88RW-2以外のCD-Rドライブは使えないのですか？	CDR-88RW-2はローランドVSシリーズ用のCD-RWドライブです。ローランドで指定した以外のCD-RWドライブを使用することはできません。
CDR-88RW-2は一般のパーソナル・コンピューターなどで使用できますか？	CDR-88RW-2はローランドVSシリーズ用のCD-RWドライブです。他の機器で使用することはできません。
どのようなディスクが使用できますか？	録音可能時間に関わらず、一般のCD-Rディスク / CD-RWディスクが使用できます。
ソング・データをWindowsの.WAVファイル形式で書き込むことはできますか？	できません。CDR-88RW-2ではオーディオCD形式をサポートしています。

Q	A
ローランド・サンプラーSシリーズ用のCD-ROM (L-CD701など) をVS-880で読み込むことはできますか?	できません。CDR-88RW-2ではオーディオCD形式をサポートしています。
1枚のCDをつくるのにどれくらい時間がかかりますか?	ソングの録音時間によります。次の関係を目安にしてください。 イメージ・データ・ファイル作成： 実時間のおよそ2倍 CD-Rディスクへの書き込み： 実時間のおよそ半分
CDR-88RW-2へ市販のCDソフトウェアを入れて再生させたときに、SCSIコネクタを経由しての録音はできますか?	できません。市販のCDプレーヤーをお使いください。
イメージ・データ・ファイルへの変換中に、誤ってVS-880の電源を切ってしまったのですが?	CD-Rディスクには影響ありません。もう一度「VS-880でオーディオCDをつくる」(P.41)の手順にしたがって操作してください。ただし、VS-880のソング・データは、最後にソング・ストアを実行したときの状態に戻ります。
CD-Rディスクへの書き込み中に、誤ってVS-880の電源を切ってしまったのですが?	そのCD-Rディスクは使用できなくなります。新しいCD-Rディスクと入れ換え、もう一度「VS-880でオーディオCDをつくる」(P.41)の手順にしたがって操作してください。
CDR-88RW-2でつくったオーディオCDが、市販のCDプレーヤーで聴けないのですが?	ファイナライズ操作をしてください。(P.48) また、CD-RWディスクを使用してつくったオーディオCDは、市販のCDプレーヤーでは再生できません。
市販のCDソフトウェアを再生できますか?	できます。「書き込んだソングを試聴する (CDプレーヤー機能)」(P.51)をお読みください。
CDプレーヤー機能のときに、CDR-88RW-2のヘッドホン・ジャック、あるいはオーディオ・アウト・ジャックから音が鳴らないのですが?	音声のモニターはVS-880のMASTER OUT (マスター・アウト) ジャック、またはPHONES (フォーンズ) ジャックでおこなってください。CDR-88RW-2のPHONES (フォーンズ) ジャック、またはAUDIO OUT (オーディオ・アウト) ジャックからは音は鳴りません。
CDR-88RW-2でつくったオーディオCDを、DATレコーダーなどとデジタル接続できますか?	CDR-88RW-2でつくったオーディオCDはSCMSに対応しています。したがって、一世代に限りデジタル接続で録音することができます。SCMSについての詳細は「SCMSについて」(取扱説明書裏)をお読みください。

## メッセージ一覧

VS-880のディスプレイに表示されるメッセージの意味は次のとおりです。

### Blank Disc

演奏データが記録されていないCD-Rディスクに対してCDプレーヤー機能を実行しようとしています。市販のCDソフトウェア、またはすでに記録済みのCD-Rディスクと入れ替えてください。

### CD-R Finalizing

ファイナライズ操作をしています。しばらくお待ちください。

### CD-R Not Ready !

CD-Rドライブのローディング・トレイが空いていたり、CD-Rディスクが入っていないなど、CD-R-88RW-2の準備ができていません。

### CD-R Writing \*\*%

CD-Rディスクにソング・データを書き込んでいます。

### Can't REC CD !

CD-RW機能を追加したため、そのままではCD-Rプレーヤーとデジタル接続できません。「デジタル信号を録音するには」(P.28)をお読みください。

### Can't Set Marker

4秒以内に二つ以上のトラック番号用マーク・ポイントは設定できません。

### Converting \*\*%

ハード・ディスクのソング・データを、CD-Rディスク用のイメージ・データ・ファイルへ変換しています。

### Change Int CLK ?

DIGITAL INコネクタにデジタル信号が入力されていません。サンプル・レイトの基準クロックを内部クロックに切り換えるかどうかを選んでください。

[ YES ] を押すと内部クロックに切り換わりません。デジタル機器が正しく接続されているか、または相互の機器のサンプル・レイトが合っているかを確認し、もう一度操作してください。  
▶ V-XPANDED取扱説明書 (P.73)

### Complete

操作が正常に終了しました。

### Digital In Lock

サンプル・レイトの基準クロックが、DIGITAL INコネクタから入力されるデジタル信号に設定されました。デジタル接続で録音ができます。

▶ V-XPANDED取扱説明書 (P.72)

### DigitalIn Unlock

DIGITAL INコネクタにデジタル信号が入力されていません。または、ソングに設定されているサンプル・レイトと、DIGITAL INコネクタに接続されているデジタル機器のサンプル・レイトが異なっています。このままではデジタル接続で録音できません。

▶ V-XPANDED取扱説明書 (P.73)

### Finalized CD !

市販のCDソフトウェア、またはファイナライズされたCD-Rディスクに対して書き込みをしようとしています。空のディスク、またはファイナライズされていないディスクと入れ換えてください。



---

### Lack of CD-R Mem

CD-R ディスクに、ソングを書き込むだけの十分な空き容量がありません。

### Lack of IDE Mem!

内蔵 IDE ハード・ディスクに、イメージ・データ・ファイルをつくるだけの十分な空き容量がありません。

### No CD-R Drive !

CDR-88RW-2 が接続されていないか、または電源が入っていません。

### No Data to Write

書き込みの対象として、演奏データが存在しないトラックを選んでいきます。

### No Disc

CDR-88RW-2 にディスクが入っていません。ディスクを入れてください。

### No IDE Drive !

IDE タイプのハード・ディスクが内蔵されていません。ハード・ディスクを内蔵してください。  
■ クイック・スタート (P.2)

### Not 44.1k Song !

ソングのサンプル・レートが 44.1kHz ではないので、CD-R ディスクへの書き込みができません。

### Obey Copyrights?

音楽著作物の複製、放送、販売などに関する許諾条件に同意するかどうかの確認メッセージです。取扱説明書裏の許諾条件をよくお読みください。

### Please Wait...

操作を実行中です。しばらくお待ちください。

### Scanning CD-R

CD-R ドライブを検索しています。しばらくお待ちください。

### TOC Read Error!

CD-R ディスクからの読み出しに失敗しました。CD-R ドライブや CD-R ディスクに異常があります。

### Too Many Marker!

1 枚の CD に設定できるトラック番号数 (98 個) を越えてトラック番号用マーク・ポイントを作成しようとした。

### Write Another ?

ディスクへの書き込みが終了しました。別のディスクへも同じ内容を書き込むかどうかを選んでください。

[ YES ] または [ NO ] を押してください。

---

## 主な仕様

CDR-88RW-2 : コンパクト・ディスク・ライティング・キット

### 適合ディスク

CD-DA (オーディオ) ディスク

CD-RW ディスク

### 平均アクセス・タイム

300 ms

### バッファ容量

1 MB

### 環境条件

温度

動作時: 5 ~ 40

非動作時: -10 ~ 55

### 接続端子

ヘッドホン・ジャック (ステレオ・ミニ・タイプ)

SCSIコネクタ (アンフェノール50ピン・タイプ)

オーディオ・アウト・ジャック (RCAピン・タイプ)

ACインレット

ただしヘッドホン・ジャックとオーディオ・アウト・ジャックは使用できません。

### 電源

AC100 V (50 / 60 Hz)

### 消費電力

10 W

### 外形寸法

177 (幅) × 312 (奥行) × 61 (高さ) mm

### 重量

2.5 kg

### 付属品

電源コード

SCSIケーブル (25ピンD-subタイプ 50ピン・アンフェノール・タイプ)

CD-R (Compact Disc-Recordable) 空ディスク

システム・プログラム Zip ディスク

CDR-88RW-2 取扱説明書 (本書)

VS-1680をアップデートする

VS-880EXをアップデートする

保証書

製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

## 用語集

### CD-R

Compact Disc Recordableの略です。これは、CD（CD-ROMや音楽用CD）と同様のフォーマットで読み書きできるディスクを作成するシステムのことです。専用のCD-Rドライブを使用して、ディスクへ一度だけの書き込みができるようになっています。ただしCDR-88RW-2では、ファイナライズをおこなわない限り、ディスクの残容量の範囲で複数回にわたってソング・データを追記できます。

ライトワンスCD（Write Once CD）、CD-Write Onceなどと呼ばれることもあります。

### CD-RW

Compact Disc ReWritableの略です。これは、CD（CD-ROMや音楽用CD）と同様のフォーマットで読み書きできるディスクを作成するシステムのことです。専用のCD-RWドライブを使用するところまではCD-Rと似ていますが、何度でも書き換えができるようになっています。

### CDプレーヤー機能

ファイナライズをおこなっていないディスク、またはCD-RWディスクの内容を確認するために、CDR-88RW-2をCDプレーヤーとして動作させる機能です。音声はVS-880のMASTER OUT（マスター・アウト）ジャック、またはPHONES（フォーンズ）ジャックから出力されます。CDR-88RW-2のPHONES（フォーンズ）ジャック、またはAUDIO OUT（オーディオ・アウト）ジャックからは音は鳴りません。

### IDE

Integrated Device and Electronicsの略です。これは、最近のパーソナル・コンピュータで標準のハード・ディスク・ドライブのインターフェースとして採用されているデータ転送の規格です。VS-880に内蔵できるHDP88シリーズのハード・ディスク（別売）は、IDE規格に対応しています。

### S/P DIF

Sony/Philips Digital Interface Formatの略です。これは、複数のデジタル機器間でステレオ・デジタル信号を送受信するための規格のことです。VS-880はS/P DIFに対応したコアキシャル・コネクタを備えています。

### SCMS

Serial Copy Management Systemの略です。これは、DATレコーダーやMDレコーダーなどの民生用デジタル・オーディオ機器において、デジタル接続による二世世代以降の録音を禁止し、制作者の著作権を保護する機能です。この機能を持つデジタル・レコーダーにデジタル接続で録音した場合、デジタル・オーディオ信号といっしょに、SCMSのための符号も記録されます。この符号が記録されているデジタル・オーディオ信号からは、再びデジタル接続で録音することができません。

### SCSI

Small Computer System Interfaceの略です。これは、高速に大量のデータを送受信できるデータ転送の規格です。VS-880は、SCSIコネクタを標準で装備しているため、ハード・ディスクやZipドライブなどの外部SCSI機器を接続できます。

最近では、高性能化とソフトウェアの共通コマンドの互換性を強化したSCSI-2も定められました。VS-880では、SCSI-2の規格に対応したハード・ディスクを使用できます。VS-880で使用できるディスク・ドライブについては、お近くのローランド・サービス、またはお買い上げ店にご相談ください。

### TOC

Table Of Contentsの略です。これは、曲の開始時刻、終了時刻、順序などの情報を管理しているCD-Rディスク上の領域です。オーディオCDをCDプレーヤーに入れると、収録曲や演奏時間を表示することができますが、これは自動的にこのTOCが読み込まれるためです。TOCは音楽データとは別に記録されており、瞬時に目的の曲の頭出しができるなどの、ディスク・アクセスの大きな特長をつくりだしています。

### Zipドライブ

米国Imega社の規格による磁気ディスク・ドライブのことです。

Zipドライブで読み書きできるディスクをZipディスクと呼びます。取扱いは3.5インチのフロッピー・ディスクと似ており、Zipディスク1枚に100MBのデータを保存できます。

### ファイナライズ

作成したオーディオCDへTOCを書き込む操作のことです。ファイナライズをおこなっていないディスクへは追記ができますが、そのディスクを一般のCDプレーヤーで再生することはできません。

# 索引

CD-Rディスク .....	41	Zipドライブ .....	13	パンチ・アウト .....	28
CDプレーヤー .....	51	エフェクト .....	13	パンチ・イン .....	28
CDプレーヤー機能 .....	51	オート・ミックス .....	31	ファイナライズ .....	48
IDE .....	67	オーバー・ダビング .....	27	メトロノーム .....	23
S/P DIF .....	67	サンプル・レイト .....	21	レコーディング・モード .....	21
SCMS .....	67	システム・プログラム .....	15		
SCSI .....	61	トラック・バウンディング .....	32		
TOC .....	66	トラック番号 .....	44		

## 著作権について

第三者が著作権を保有している作品（CDソフト、ビデオ・ソフト、放送など）を無断で録音し、公演、放送、販売、配布などをおこなうことは法律で禁じられています。

ローランドVSシリーズおよびCDR-88RW-2はSCMSを備えていません。これは、著作権を侵害しない作品にまでSCMSによる制限を加えないように考慮しているからです。なお、ローランドVSシリーズおよびCDR-88RW-2を使用することによってあなたが第三者の権利を侵害しても、ローランドは一切その責任を負いません。

## SCMSについて

DATレコーダーやMDレコーダーなどの民生用デジタル・オーディオ機器において、デジタル接続による二世世代以降の録音を禁止し、制作者の著作権を保護する機能です。この機能を持つデジタル・レコーダーにデジタル接続で録音した場合、デジタル・オーディオ信号といっしょに、SCMSのための符号も記録されます。この符号が記録されているデジタル・オーディオ信号からは、再びデジタル接続で録音することができません。

## 許諾条件について

ローランドVSシリーズ、およびそのCD-RW機能は、あなた自身が著作権を保有している素材、あるいは著作権保有者から複製を許可された素材を複製するために設計されています。したがって、音楽CDソフトなど、第三者が権利を有する素材を権利保有者の許可なく複製することは、自分で楽しむことを目的とした使用（私的使用）時以外、著作権法違反となり罰せられます。権利保有者の許諾を得る方法などの詳細は、著作権専門家、専門機関にご相談ください。

## お問い合わせの窓口

商品のお取り扱いに関するお問い合わせは・・・お客様相談センターまでご相談ください。尚、お問い合わせの際には取扱説明書をご用意ください。

**お客様相談センター 受付時間：午前10時～午後5時（土、日曜、祝日および弊社規定の休日を除く）**

< 電話番号 >

**大阪** TEL (06) 6345-9500                      **東京** TEL (03) 3251-6150

< 住所 >

〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-16 大和堂島ビル7F

修理に関するお問い合わせは・・・商品をお求めの販売店か、保証書に同封されている「サービスの窓口」に記載の営業所、サービス・ステーション、またはサービス・スポットまでご相談ください。

上記窓口の名称、所在地、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

'99 1.20 現在